

昭和五十一年九月招集

第三回館山市議定会定例会會議錄第二号

館山市議會

目次

| | | |
|-----------------|-------|---|
| 日時 | | 一 |
| 場所 | | 一 |
| 出席議員 | | 一 |
| 欠席議員 | | 一 |
| 出席説明員 | | 一 |
| 出席事務局職員 | | 一 |
| 議事日程 | | 一 |
| 開議 | | 二 |
| 行政一般通告質問 | | 二 |
| 石井 武敏君の質問、当局の応答 | | 二 |
| 渡辺軍治郎君の質問、当局の応答 | | 二 |
| 石井 輝久君の質問、当局の応答 | | 二 |
| 辻田 実君の質問、当局の応答 | | 三 |
| 休会 | | 四 |
| 散会 | | 四 |
| 本日の会議に付した事件 | | 四 |

一、昭和五十一年九月十七日（金曜日）午前十時

一、館山市役所議場

一、出席議員 二十九名

| | | | |
|------|--------|------|--------|
| 一 番 | 吉田 勇治郎 | 二 番 | 伊藤 幸太郎 |
| 三 番 | 矢野 寿夫 | 四 番 | 押元 稔 |
| 五 番 | 黒川 平治 | 六 番 | 鈴木 正義 |
| 七 番 | 本間 昭二 | 八 番 | 松下 正己 |
| 九 番 | 鈴木 稔 | 一〇 番 | 流山 源次郎 |
| 一 番 | 近藤 好雄 | 一 番 | 栗原 一雄 |
| 二 番 | 林 豊 | 二 番 | 石井 輝久 |
| 三 番 | 辻田 実 | 三 番 | 安西 益男 |
| 四 番 | 石井 武敏 | 四 番 | 渡辺 軍治郎 |
| 五 番 | 和田 一郎 | 五 番 | 田中 禄郎 |
| 六 番 | 五十嵐 昇 | 六 番 | 菊井 敏博 |
| 七 番 | 西村 真次 | 七 番 | 伊賀 多朗 |
| 八 番 | 藤田 益治 | 八 番 | 遠山 日ネ子 |
| 九 番 | 石井 正 | 九 番 | 望月 照正 |
| 一〇 番 | 山口 康 | | |

一、欠席議員 一名

一九 番 渡辺 昭夫

一、出席説明員

第一号に同じ

一、出席事務局職員

第一号に同じ

一、議事日程（第二号）

昭和五十一年九月十七日午前十時開議

開

議 午前十時三分開議

○議長（吉田勇治郎君） 本日の出席議員数二十八名、これより第三回市議会定例会第二日の会議を開会し、直ちに本日の会議を開きます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

行政一般通告質問

○議長（吉田勇治郎君） 日程第一、これより通告による行政一般質問を行います。

締め切り日の九月十一日正午までに提出のありました議員、要旨並びにその順序は、お手元に配付のとおりであります。

これより順次質問を行います。

なお、この際申し上げます。通告質問者は以上のとおりであり他に関連質問等の発言もあるかと思いますが、本日は通告者のみといたします。発言の方法は、最初の発言を二十分以内とし、執行当局の答弁は時間外、再質問は答弁を含めて三十分以内といたします。

これより順次発言を願います。一七番議員石井武敏君。

（一七番議員石井武敏君登壇）（拍手）

○一七番（石井武敏君） 私は、通告してございます各何点かにつきまして御質問いたします。

まず第一点につきましては、防災対策でございませうけれども、最近各地におきます大型地震の発生をみますと、非常に悲惨なも

の、目を覆うものが多くあります。そして、これらの被害を最小限に食いとめるためには、災害をできるだけ早く予知することが最も肝要になるわけでありますが、また予知するとともに、それに対する対策はゆるがせにできないものであらうと思われれます。

さて、かつての関東大震災からはかなりの歳月が流れておりますが、「天災は忘れた頃にやってくる」の言葉がありますように最近の有力な説によりますと、大型地震の六十年周期説というのがありますが、この説に従うとすれば、すでに現在ではこの危険期に入っているということになります。今後はかなりの入念な対策が必要となってくるわけでありますが、またこの周期説のほかにも各種の学者グループが結成しております地震予知研究会が進んできており、房総沖にはその震源地ありと報告しておられる説が多分に有力になってきているわけであります。これも一つは見逃せない問題であると思えます。

ですから、これらの対策は慎重に検討されていなくてはならぬいし、積極的に市当局としても取り組んでいただきたい事柄であるわけであります。

また、風水害につきましても、台風の到来のシーズンになりますと、かつての集中豪雨のとき、まざまざと私たちが体験したような不安を思い出すわけでありますが、先ごろの十七号台風の襲来等々におきまして、これらの災害が到来してからではすでに事後処理ということになるわけであります。それに先んじていく対策というのが必要ではなからうかと思われれます。

たとえば、三百ミリの集中豪雨が先般ございましたが、その際に、市内の各所に非常に被害が起こっております。たとえば、こ

れが五百ミリの集中豪雨が当地にきたときに、どのように被害が広がっていくのか。どの個所が危険であるか等々は細かく具体的に検討されておらなければならないものであると思います。もし危険個所が市民の私財産であるならば、しかるべく被害を最小限に食いとめるための防止策を指導するとか、あるいはまた市に直接属するものであれば、しかるべく処置をとっておくということが必要であると思います。これらの防災対策がどのように進んでいるのかという点に御質問したいと思います。

続きましては、地域医療体制についてでございますけれども、地域医療協議会におきまして種々に検討されていると思いますがその後それらの話し合いがどのように進展をみせているかという点をお聞きしたいわけでございます。

この問題につきましては、夜間、救急診療については数回にわたりこれも通告質問してありますが、市民が誰が必要で十分な治療が受けられるような救急医療体制これを望んでいるわけであります。あくまでもこの問題は住民サイドに立って進めていくべき問題であろうと思いますが、どのように具体化しているかという点についてお聞きしたいと思います。

次に、バイパス問題であります。御承知のように六月の議会におきましては、さまざまな角度からこの問題は議論され、討議されておりますが、そのときの議事録によりますと、市長の示す方向と、いわゆるバイパスをつくられては困るという側の言い分とは、あくまでも平行線をたどってしまったように思われるわけでありますが、これらの問題点を考えてみますと、たくさんあると思いますが、ここに手元に館山バイパス反対協議会の出しまし

た陳情書が一通手元にありますが、この七項目の中にきわめて簡素に要約されておると思いますので、その問題点を挙げてみますと、一つは、路線決定に当たって関係住民に事前に全然知らされなかったということを問題としておるわけでございます。

大網バイパスなどでは、路線決定に当たっては事前に関係住民に知らされて種々の路線について検討がなされて、一番抵抗の少なかった理想的のところ決定されておるということでございます。

二番目は、このバイパスを建設するための決定的理由がないということでございます。たとえば、それがあっても説明不足で希薄であるということでございます。バイパス建設が交通渋滞を解決するだけのものであるならば、まだほかいろいろな方法があるのではないかと、このように主張されているわけです。

また、三番目としましては、この路線には四十世帯から五十世帯の住宅、実際住んでる方々がひっかかっているということでもあります。ほかのバイパス建設の例を見ましても、たとえば大網バイパスではほとんど人家を避けてつくられているというように、慎重にこのへんは考えられているようであります。

また、四番目としましては、四車線の道路幅が二十五メートルから三十七メートルにわたるということで、非常に道路の両側にまだ農作業を必要とする人たちがたくさんおりますし、これらの人たちの作業上著しく妨げになるという問題であります。

五番目としましては、北条小学校、北条幼稚園、安房南高、また将来の館山高、那古小学校というように、バイパス建設のためいろいろな点で被害を受ける学校があまりに多過ぎるという点で

あります。

また、六番目としましては、このバイパスは国道になるとはいっても車専用となる可能性が非常に強い。ですから、鴨川、白浜方面の通過道路になってしまふであろう。さすれば、館山の観光にとっても直接プラスではなくて、かえってマイナスの要素が多くなるのではないかとということも問題点として取り上げられております。

また、七番目としましては、館山市の市街地の中でも現在わずかしかなない田園地帯を破壊していくと、いわゆる公害問題でございしますが、騒音、排気ガスを巻き散らしていくという点も非常に重要視しているわけであります。きわめて簡素に、簡潔に七項目が取り上げられているわけであります。

また、これらの問題点に対しては、市当局としてもはっきりとした見解というものが今後必要だろうと、そういう見解を確立してもらわなければならないと私は思うわけであります。

今回の私の質問でございしますが、特に四項目に挙げてございします四車線の道路幅は非常に合理性に欠けているという点を今回私は通告してございますが、これは非常にごく身近な例ですが、バイパスの建設予定地におきますところが、まだ田畑をばさんでいる個所が非常に多くて、非常にこれは卑近な例であります。たとえば耕転機で四車線道路を渡ることには非常に危険である。これはどなたがお考えになっても御承知のとおりでございます。

また、四車線道路ができた場合に、田畑の真ん中を四車線が横切るために大部分が使えなくなり、両端の三角形の小さな土地しか残らない。これでは今後とうてい農作業がやっていけないとい

う、そういう嘆いておる方も事実あるわけです。

こういった理由から、ですから二車線案についてはどのように市長さんは考えておられるか。そういう点を聞きたいと思うわけでございますが、なお、バイパス問題につきましては、再質問で細部にわたり細かくまた御質問申し上げたいと思います。

最後に、青果市場の統合問題であります。これは館山市民の食生活におきまして直接関係のある青果物が市民の手に入るまでの流通機構を改善していくという観点からみましても、非常に青果市場の統合問題というのは非常に望ましいものであると思われるわけであります。

この統合問題が起こったのはすでに十年前に提起されておるようでございます。その後には県からの指導もありまして、両市場の話し合いが持たれたようでありますが、県のねらいの一つは、現在あります市場、千倉に二社、館山に二社、網南に一社というように分散しているこれらの市場を一つにしていこうというのがねらいのようでございますが、現実的な問題を踏まえますと、まず館山市にあります二社を統合させていくと、そのあとで段階的にほかの統合を進めていくという方向が非常に望ましいのではないかと、というふうに思うわけであります。またこの統合問題につきましての意見、直接利害関係のある方々の意見等はすでに八〇％は賛成であるかのように聞いております。いわゆる出入りの業者の八〇％の業者は賛成であるというように聞いておるわけであります。また丸中の市場の方も安布里の方に土地を借りまして、ようやく県からの認可を受けたのが二、三カ月前であるというようにも言われておりますので、その際の認可の際の契約といえます。

か、県からの取り交わしの中には、統合の時期がきたときにはすみやかに統合しなさい。統合しますという旨が、一筆が取り交わされているようでありますので、ちょうどこの機会が長い間懸案事項となっており、この問題の一つの解決の節になると思います。ですので、市当局はこれらの統合の指導を今後どのような方向で進めていくということにつきましてお聞かせ願いたいと思うわけであります。

以上、数点にわたり御質問いたしますが、明解なる御答弁をよろしく願います。

(市長半沢良一君登壇)

○市長(半沢良一君) 御答弁申し上げます。

御質問の第一点、防災計画及び地域医療体制はその後どのように推進されているかという御質問でございますが、館山市地域防災計画は昭和四十年に作成され、以来社会環境の変化に対応した地域の実情に即した実践的な内容といたしますため、毎年修正、整備を図っているところであります。

特に近年、房総沖に大地震発生の可能性が大きいことが学界等で発表されておりますことから、従来の風水害を主とした予防計画に加えて震災予防計画の整備を図っており、本市ではこの計画に基づいてすでに地震被害概要想定、作成並びに震災応急対策図上訓練の策定等の作業を一応終了いたしました。さらに震災対策総合計画の策定作業に取り組んでいるところでございます。

また、これらの計画を実践に即したものとするため、各種の防災訓練を実施し、防災意識の高揚をはかるなど、実効性のある防災計画の樹立の推進に努めております。今後あらゆる災害に対

処するため、防災計画のなご一層の内容の充実とその運用の円滑を図りまして、より実効性、具体性のある防災計画の策定に努め災害防止のため積極的に取り組んでまいりたいと存じます。

次に、地域医療体制についてお答えを申し上げます。

医療資源の効率的な活用を進め、住民に必要な医療の確保を図るためには広域的にこれをシステム化することが望ましいものと考えております。

特に、社会問題化の傾向を示している救急医療につきましては、国におきましても医療体制を推進するため新しい補助制度を設けましたので、本市を含め構成しております広域市町村圏事務組合にありまして、昨年十月から補助対象団体として医師会と契約を行い、広域的に事業実施をいたしております。

従前から検討を続けてまいりました安房郡市地域医療協議会にありましては、交通災害等の事故による救急患者あるいは診療時間外における急病患者等を把握しながら基本問題の対応策を積み上げ、実際の各事項につき深く立ち入り慎重な検討を重ねております。

本年度に入り、医療協議会の内部に専門懇談会を設け、急病診療所、待機医療施設等の設置問題、医療機関と救急搬送機関との連携、医療情報の組織化及び収集方式、その他につき医療を直接担当する医師会ともども市町村、保健所共同で現在当面する重要課題である。そういう認識のもとに前向きに検討、具体策の策定段階に入り、答申も近いものと考えております。

各市町村の財政事情は厳しく困難な時期ではありますけれども、本市としても、現在医学の恩恵を受け、生命の安全と健康の保持

増進を図られるよう最大の努力をほらい、医師会の積極的な協力を得まして、地域医療体制の早期確立を期する所存でございます。

第二点、バイパス問題について、四車線計画を二車線に計画変更できないかという御質問でございますが、国道一二七号線バイパスは建設省が現在の国道の改築として両側で四車線二十五メートルの幅員で計画しているものでございます。

建設省では交通状況等種々勘案し、この企画を採用したものであり、これを変更する考えはないと申しております。

第三点、青果市場は統合の方向が望ましいと思うがどうかという御質問でございますが、結論から申し上げますと、統合することが望ましいと考えます。

最近、われわれの生活を取り巻く経済情勢は特に厳しさを増しております。こうした生活環境の中で日常生活に密着した生鮮食料品価額の安定が強く望まれ、また非常に重要な問題として提起されております。したがって、価額安定の大きな要素を占める流通機構すなわち市場の統合改善と合理化の促進が一層強く要求されてくるわけであります。

住民の需要を充足し、安定性を維持するためには青果市場を統合、公営化し、流通形態の変化に対応できるよう取引の拡大、コストの節減等一層の効率化を図っていかねばならないと思っております。

従来、このような趣旨を十分踏まえて関係者とも協議を行い、実現のため努力をしてみましたが、市が当面する問題であります生活環境施設の整備に全力を注ぎますことと、丸中青果市場が交通のふくそう問題を解消し、施設の拡張、改善を図る移転、

新設も、地方卸売市場としての認可が決定し、実ある出発が期待されておりますので、今後は長期的な展望に立っての、かつ広域的な面を十分考慮し、関係者とも協議、調整を重ねながら統合の具体的問題の解決を図ってまいりたいと存じます。

〇一七番（石井武敏君） 再質問をいたします。

初めに、バイパス問題についてでありますけれども、御承知のように、このバイパス路線はかつて都市計画法に基づきました路線の上に線引きされて非常に重なっているということはだれでも明らかなことでありますが、まず都市計画の道路の線引き、根本的なそれらの問題につきましても多分な問題点が残っていると思われるわけであります。

たとえばですね。どういふことかといいますと、都市計画法に基づきますと、都市計画法の第十六条にはそれらの路線についての公聴会の開催を規定している条文があります。この条文を見ますと、「都道府県知事又は市町村は、都市計画の案を作成しようとする場合において必要があると認めるときは、公聴会の開催等住民の意見を反映させるために必要な措置を講ずるものとする。」という条文が、これが十六条の条文でございます。

第十七条の条文にいきますと、「都道府県知事又は市町村は、都市計画を決定しようとするときは、あらかじめ、建設省令で定めるところにより、その旨を公告し、当該都市計画の案を、当該公告の日から二週間公衆の縦覧に供しなければならぬ。」というようにうたわれておりまして、都市計画のその路線の線引きにおきまして、多分にこのへんの十六条、十七条の条文が守られていたであらうか、どうだろうかというところに非常に疑問が

残るわけであります。しかし、私は今回の質問は都市計画の疑問がどうであったかということではなくて、これから市長さんはこの問題にどのような姿勢で、どのような形で取り組んでいかれるのか。今後のことをお聞きしたいと思うわけであります。

同じく、都市計画法の二十五条を見ますと、いわゆる調査のための立ち入りを規定した条文がございます。これをちょっと読みますと、「建設大臣、都道府県知事又は市町村は、都市計画の決定又は変更のために他人の占有する土地に立ち入って測量又は調査を行なう必要があるときは、その必要の限度において、他人の占有する土地に、みずから立ち入り、又はその命じた者若しくは委任した者に立ち入らせることができる。」という条文でございます。これは強制立ち入りといえますが、調査のために必要があれば立ち入って調査することができるといふ条文でございます。

第二十五条の五項の方を見ますと、「土地の占有者は、正当な理由がない限り、第一項の規定による立ち入りを拒み、又は妨げてはならない。」という条文があるわけですね。

これらは、いずれも土地の占有者に対する一つの拘束というような形であらわれているわけであります。

都市計画法は、さらにその第三章におきましても、都市計画のいろいろの制限、開発行為の規制であるとか、建築制限であるとか、いろいろの制限を個人の財産に加えているのが現状であるわけですね。

私がお聞きしたいところは、今回のバイパス道路につきましては、これは道路法に基づいて施行しようとするものであると思ひます。特に、道路法の中で、これらの土地を占用している者に対

して規制を加える条文というのがおそらく土地収用法という中にあると思ひますが、このバイパスは道路法によって行うということとははっきりしておりますので、この収用法の中に個人の財産の立ち入り調査、これに対しては道路法ではどのようなように条文的に示されているのか、どうなのかということをまず一点お聞きしておきたいと思ひます。

○建設課長（飯田治男君） 御参考に申し上げますけれども、先ほどの都市計画法の十六条の公聴会の件でございますが、館山市の都市計画街路は、新法が四十五年六月から施行されておるわけであります。その施行前の四十四年三月に決定されたものでございます。念のために申し上げます。

それから、今度の国道の事業につきましては、道路法の六十六条にやはり調査の立ち入りという条文がございます。他人の土地の立入又は一時使用ということで道路法の第六十六条に定められております。

建設省の国道事務所から昨年の十二月三日に道路法六十六条による立入検査の通知が市町村長にきております。それで、私どもではどういう方法でということと国道事務所と話し合いましたところが、関係部落内に回覧をということでございます。特に、今度測量につきましては、幅百五十メートルぐらいで約館山市内五キロ間の測量を実施するというところで、一応関係の町内会長さんに回覧をお願いしました。これは昨年の十二月十五日にお願いしてございます。これは私どもの方で印刷したものをじかに町内会長さんのところにお届けしまして回覧をお願いしております。今年一月十五日に市の広報にも一応載せまして皆さんに御通知申

し上げております。その場所につきましては大字、関係の小字まで書きまして、この地域の土地については測量のため立ち入るからということ御通知申し上げてあるわけでございます。

〇一七番(石井武敏君) いわゆる道路法によります六十六条に調査の立ち入りという規制がある。条文があるというお答えがあったわけでございますが、私は道路法の用い方をお聞きしたいと思うわけでございますが、たとえば、道路法にそういうように個人の占有する土地を道路法に基づいて強制的に調査をしていくとが、そういった法に基づいて強硬にそれやっていくのかどうなのか。道路法の用い方を聞いているわけでありますが、そのへんはどういうようにお考えになっていきますか。六十六条に調査の立ち入りの条文があるということはわかりましたけれども、その用い方を私はお聞きしたいと思います。

〇建設課長(飯田治男君) 道路法の六十六条にこういうものが規定してあるということは、やはり道路工事、その他を実施するためにこういう条文を設けておかなければ測量もできないということなので、この条文に従っていままで道路改良については実施しておるようです。

〇一七番(石井武敏君) ということになりますと、たとえば、この国道一二七号線バイパスは、道路法六十六条に基づいて土地を占有している人に一応通告する義務があるようですが、必要とする範囲で立ち入り調査をするということなのでしょう。いわゆる国は、道路法を各全国的に見ましても、道路法というのはどこ道路も適用できるわけです。しかし、それを用いていくやり方があるわけです。いわゆる法にそのように載っているから、それを

表に出して強引にやって実施するのか。あるいは納得いくまで話し合って、対話をし合って、その中で前進していくのか。どちらの方向を市長さんは取られようとしておられるのかということをお聞きしたいわけです。

これによりますと、このお答えによりまして、相当バイパス反対側の方も硬直化してくることは明らかです。ですから、いわゆるその取り組み方の姿勢というのは今後重要なかぎになってくると思います。

私がお聞きしていることは、そういうように法をもって強制立ち入りをする形をするのか。あるいは話し合いをして納得させて進めていくとどするのか。そのへんをお聞きしているわけでございます。

〇建設課長(飯田治男君) この法を適用する前に、昨年十月二十七日、二十八日に関係地区内で四カ所にわたってこの測量をするという前提のもとに計画説明会を実施しております。

〇一七番(石井武敏君) ですから、私がお聞きしているのはいままでの経過ではなくて、これからどういうようにこの問題を解決していくために考えておられるかという、これからの問題をお聞きしたいということをお聞きしたいと念のために申し上げたわけでございますから、いままでの経過は結構でございますが、いわゆる言葉をかえて言うとし固い表現になりますけれども、法を盾にとつて強引にこういう問題は進めていくというやり方はほとんどが失敗をするとは私は思うわけです。

たとえば、もう一点お聞きしますが、話がいまの時点より進んできて土地をいよいよ買収するという段階になりました、それで

は土地を絶対に私は売れません。先祖伝来の土地で売れません。たとえば、ここに道路をつくるということに対して納得できないので、土地を売ることができませんというような、たとえばですよ、買収の段階になってそういった事態になったときなど、それを法を用いましてそれを買収することができるのでしょうか、できないのでしょうか。

○建設課長（飯田治男君） 今後のそういった問題につきましてはこれはあくまでも関係者と事業主体と話し合いということで、市の立場といたしましては、国と住民のバイプ役になると、これは前回の通告質問のときにも市長の答弁でありましたように、バイプ役になって住民の意思を国の方に伝えて、円満な話し合いで今後進めたいということが市の考え方でございます。

○一七番（石井武敏君） ということは、あくまでも法を盾にとって計画を進めるというのではなくて、お互いに住民と国のバイプ役となって、その役割というのは話し合いで納得をする方向に持っていきたい。いわゆる平和的解決という言葉がちよっとあれかもしれませんが、そういうふうに解決をしていきたい。そういう方向でしょうか。いま課長さんの答弁で、市長さんそのとおりでございますでしょうか。

○市長（半沢良一君） ただいま課長答弁いたしましたし、また先般にも御答弁申し上げましたように、事業主体は国でございますから、直接的な関係のあるのは国と予定地の市民の方でございます。

市といたしましては、ただいま課長の答弁いたしましたように国と市民との間に立ってバイプ役としてこの計画が円満に遂行で

きるように努力をいたしたいというふうに考えております。

○一七番（石井武敏君） それは建設省が事業主体であるということとは百も承知で質問しているわけで、といいますのは、いわゆるバイパスを反対する側も、あるいはバイパスを促進しようとする側も、非常に市長さんに求めることが多いということであります。たとえば、一つの例を引いてみますと、今般は逆に促進する側のバイパス計画促進会が進めているチラシが手元にありますけれども、これにも非常に市長さんに求めているものが多い。

たとえば、国道一二七号線館山バイパス促進会が進めている事業内容の中に、一項目には、館山市長に対して館山バイパス建設相談室の設置を要望して、市民の相談、要望を処理する。またバイパス建設のため宅地及び農地等を提供する方は真に気の毒に思いますので、国の買い上げ価額の適正を図り、市長が約束している代替地の用意を至急実現してもらうという事業内容が載っているわけです。非常に市長の見解、考え方に求めることが非常に多くあるわけです。この注目すべきものは、五項目の中でいろいろの理由で反対している方々と市民の方々とよく話し合いをしてもらい、理解をしてもらうという項目もあるわけです。

こういうふうに建設省が事業主体であることはもちろん承知でありまして、ただ、館山市内にその道ができて、館山市内の多くの方がそのバイパスによって影響を蒙らすわけでありまして、利害ともに影響を蒙らすわけでありまして、これはもちろん建設省が事業主体であるけれども、市長さん自身の、このいわゆる館山市内に二つ生じております二つの勢力というところですが、バイパス促進側の勢力またバイパス反対の側の勢力、この両者を踏

まえて、ちょうどこのバイパスの促進側と反対側が右、左とする
と、その三角形の頂点に立って指導していく。そういう指導性、
主体制というものが要求されているわけでございます。現実的に
こういったものを、チラシを見ましても、市長さんに指導性、主
体性を要求しているものが見られるわけです。

それに関して、やはり市長さんはこたえていかなければならな
いであろうと思うわけです。ただ単に、建設省がやっているんだ
ということでは済まされない問題がここにあるわけです。

現在、館山市の中にどのような運動が展開し、どのような事柄
が起きているかということになりますと、これはたとえば、バ
イパスの反対側として署名運動を現在進めているわけでございま
す。最近に至りましては、促進側も署名運動を進めているんです。
ここで両方が署名合戦が始まりまして、ちょうど私が知ったとこ
ろによりますと、初め反対側に署名したけれども、あとから賛成
側に署名したというの中には出てきておる。これは珍現象、一
つの変った現象が起きてきている。これは事実です。

これはどういふことかといいますと、最初反対の署名した人が
その後促進側の署名が商工会議所の方からの依頼で区におろされ
て、班長さんが区内を回わって、一巡して、回覧板等を持って回
わっているわけです。

サインする側にとりましては、区から依頼されたということでは
義理立てというのを考えてサインするという場合も、こういうケ
ースもしばしばあったでございましょうし、また道路のできる位
置とか、完成後の生活環境とか、公害とかそういった問題を考え
ずに、よく理解せずに安直にサインする場合もあったでしょう。

しかし、私は今後このような現象が非常に多くなると思われるわ
けです。といいますのは、九月の八日に建設促進会の方では全市
的な署名を展開しようということを決議してあるわけであります。
こうなりますと、私は、もし署名がたくさん集まったからそれ
が正しいんだとか、あるいは形式的なものだけで判断する市民の
創意として判断するということは非常に正確性に欠けてくると思
うわけでございます。

こういう点で、道路をつくるということはいいかとじゃないか
ということでは促進側は言うわけです。道路をつくることはいいか
とじゃないか。道路づくりの大義名分というものがあつて、
大義名分により多くの署名も集まるでしょうし、また館山市内の
道路がよくなり、館山市の交通事情が実際によくなり、館山市の
観光が本当に発展してくるものなら、これはどれを取っても市民
にとっては少なからず賛成する人が多いことでしょう。

ですから、このバイパスの計画も、本当に、真に館山の観光に
役立つかどうか。真に館山にとってこの路線が必要であるかどう
か。この路線が非常に合理的な、しかも理想的な路線であるかど
うか、そういうところに問題があるわけでございまして、そうい
った私は促進側の側においても促進するための裏づけになるもの
いわゆる促進側のこのチラシを見ましても、これだけの中に言い
尽されていないことがたくさんあるかもしれせん。このバイパ
スを促進しようとしていくその裏づけの確かなもの。これだから
こういう理由で合理的な路線ではないか。こういう理由で館山市
民の生活に必要ではないか。こういう理由で本当に観光のために
役立っていくじゃないかという裏づけが非常に弱いように思われ

るわけです。これは促進する側が反対側の方々に對して説明をする必要があると思うわけです。

また、先ほどもいいましたように、館山市の中にある二つの動き働きの中で、市長さんはバイパス促進側とバイパス反対側と公平にその頂点に立たれて、柔軟性を持った姿勢でこれに当たらなければならぬのじゃないかと思うわけでございます。

ですから、今後の一つの方策としては、促進側の方が、あるいは反対側の方が市長さんの音頭で談合すべきであると、本当にこの路線がいいのか、悪いのか。あるいはバイパスを建設する本当の原点に立っていくことが必要であろうと思われるわけです。

私は、いたずらに署名合戦が始まって市民が混乱するよりも、そういった実質的な話し合いというものが、バイパスが必要であるかどうかというその原点に立っての話し合いが、促進側と反対側を踏まえて持つべきであると思うわけですが、こういう点、市長さんはこれはあくまでも建設省そのものの仕事であります。直接市民に影響する大きな問題であるが故に、それらを公平に見詰めて両者で話し合いをどういうふうな形に持っていくか話し合いをすべきではないかと思いますが、その点についてどのように考えられますか。

○市長（半沢良一君） このバイパス問題に端的に表現されましたように、価値観が非常に多様化してまいりました。市民のそれぞれの要求というのは相矛盾する要求が市に出てくる場合がたくさんあるわけでございます。

お説のように、それぞれの立場、それぞれある程度の正当性は持つてゐるわけでございます。そのいずれを取るかは、館山市の将

来の長い観点に立って、館山市の将来を考えるとという観点に立つて考えていきたい。その対立する両方のみならず、いろんな意見の調和を図っていきたい。お説のとおりの方角で努力をしたいと考えております。

○一七番（石井武敏君） バイパスのいわゆる問題については、いわゆるバイパスを反対している方々は、この反対運動の体質にちょっと触れておきたいんですが、まずこれは特に革新的な主義を持つてゐる方々の集まりでも何でもありません。ごく市民的な市民といえますか、バイパスの問題が起これなければ平凡に一生を一市民として送って行かれる方々がほとんどでございます。そういういた平凡な市民の方々が、本当に自分の畑を取られて困るか、あるいはバイパスができると農作業に支障を来すとか、そういうように純粹に考えているわけでございます。

ですから、そういうようにいかにも戦闘的な、いわゆる陳情書等を見ましても「このバイパス路線をわれわれは認めるわけにはいきません。いくら測量が一応終ったとはいえ、これが絶対であるかのように、関係住民の意向を無視して事を進める当局のやり方をわれわれは黙って見てゐるわけにはいきません。」等々ありますけれども、非常に何かそういうふうに特殊な革新的な主義を持つた方々がこういうふうに言つてゐるわけではないんです。ごく平凡な人たちが自分が實際困つたということで、この運動が起つておりますし、初めは運動の仕方もわからない。また、どうやっていいかわからない。どこに持つて行つていいかわからない。右往左往していた人たちがであります。

これらの人たちに、柔軟性のある態度で、柔軟性のある姿勢で

当たっていかない限り、こういうように硬直化してしまいうわけてす。おそらくこれは、このまま硬直化したままでは、いくら話が一方的に建設の経過が進んだとしても絶対に売れません。どうしますか。こういうことになりました、それは結局このバイパスは完成しないものであるうと思われまます。

ですから、先ほど申し上げましたように、市長さんにおかれましては、この両方を踏まえた公平な立場に立って、両者の意見を平等に聞いて、そうしてこの話がいたずらに署名運動合戦に発展して加勢していくことを望むわけではなくて、実際に対話を通して、お互いに路線のことに關して真剣に考えていく。こういうことが必要であるうと思うわけでございます。ですので、これからそういった形で、ぜひこのバイパス問題につきましましては取り組んでいただきたいことを、これを強く要望するわけでございます。

次に、防災計画につきましては、避難所計画がありますか。他市ではいろんな角度から進められておりますが、当市ではどのように避難計画が進められているかどうか。これをお聞きしたいわけでございます。また、県の方針等が確かあると思いますが、市の考え方としてはどうなのか。この点をひとまずお聞きしたいと思います。

○防災課長（羽山房雄君） お答えいたします。

地域防災計画の中に学校、神社、仏閣等公共の施設あるいはそれらの広場等を避難施設として、避難場所として指定してございます。

○一七番（石井武敏君） これは災害がもし万一発生したときに、そのときになったら多くの犠牲者が出るし、日常生活の中でわか

るように、一般の市民の人にわかるようにしておかなければならないと思うんです。避難場所の指示をしたものを掲げておくとかそういった必要性があります。この点をぜひ検討していただきたいと思ひます。

○議長（吉田勇治郎君） 一七番議員君の質疑をこれにて終ります。

次、一八番議員渡辺軍治郎君。

（一八番議員渡辺軍治郎君登壇）

○一八番（渡辺軍治郎君） 私は二点について質問したいと思ひます。一つは、衛生センター建設予定地の問題点。第二は、国道一二七号線バイパス建設についてであります。

まず、衛生センター建設予定地の問題点についてですが、藤原のし尿処理場が老朽化し、いつパンクするかもわからない危険な状態にあることは周知のとおりです。したがって、処理場の建設は緊急の課題になっております。

市長は、昨年三月の定例市議会で衛生センターの構想を明らかにし、三名の企画チームを編成して作業を進め、十一月より建設用地の選定に入り、その経過報告が本年六月二十二日の全員協議会で行われ、さらに七月十四日の全員協議会では衛生センター建設予定地を上真倉日坂に決定した清掃審議会の答申を了承しました。

地元民との話し合いで決定したのではなく、地元上真倉からは区民九百八十五名の署名を添えて建設に反対する請願書が市長に提出され、その後署名も四十七名追加されています。

市長は、清掃審議会の答申に基づいて、地元の了解を得るために上真倉、青柳、岡田の住民と懇談したが、地元の反対は強く、

請願の趣旨を再確認し、今後話し合いに応じないという強い意向が示されたということが八月七日の全員協議会に報告されました。

最大の問題は、現在真倉には火葬場があります。隔離病舎もある。野犬の処理場もあるというような、要するに不快感がある上に、さらにごみやし尿処理場ができては真倉が衛生区になり、行政区として真倉だけにこういうものが持ち込まれるのは困るといふ、不公平ではないかというのが大きな問題だと思いますが、地元との話し合いの中で、処理場用地をめぐる利権がからんでるのではないかという疑念が出されたと聞いております。

また、房日新聞には、し尿処理場とごみ処理場という見出しで八月二十五日から三回にわたって川名秀夫氏の報道が掲載されています。この中にも、不動産業者の土地ころがしがあるのではないかとこの疑念が指摘されています。

私も現地を調査しましたが、同じような疑念と、それからくる不信任感が反対の要因になっていることを聞かされました。したがって、この疑念と不信任感を取り除かない限り、地元の協力を得ることは期待できないのではないかと強く感じました。

そこで、市長は、この疑念を晴らすための措置をする必要があると思ひますかどうか。伺ひます。

次に、疑念の生じている問題点を挙げますと、川名秀夫氏の調査によると、昭和四十八年六月から十月に上真倉日坂、細田の山林六筆七千九百七平米が朝日興業が買収し、そのうち二筆が吉田新一名儀、四筆が四十九年五月に新釜旅館名儀に登記され、五十年七月から十二月に小池作の山林四千六百三十二平米が新釜旅館名儀になっています。五十一年六月に小池作の隣接地千六百五十

九平米を新釜旅館名儀で買収登記しています。さらに朝日商事が隣接地小池作の山林三筆二千七百五十六平米を買収し、他の不動産業者も四千七百二十平米を買収していると言われています。合計二万六千六百七十四平米、約七千坪が不動産業者によって買い占められています。

これらの買収に伴い、新釜旅館と館山信用金庫との間に次のような抵当権を設定しています。四十九年五月七千九百七平米に対して三千五百万円、坪単価にしますと一万四千六百円、五十年七月一万二千五百三十五平米を五千万円、同年の十一月は八千万円に引き上げ、さらに五十一年五月には九千五百万円、坪にして二万五千円に変更登記しています。

以上で見ると、抵当権の評価が大幅につり上げられています。実際の売買価額を聞いてみますと、朝日興業が松坂七郎ほか数人から山林八反歩を反百万円で買収し、新釜旅館と市原市の不動産業者木島に転売し、新釜旅館はその木島から反四百万円前後、坪一万三千三百円で買収していると言われています。

また、新釜旅館は、五十年七月石井ほか二名から山林四反六畝を反百万円で買収し、五十一年六月に同じく田や畑、山林一反六畝を反百五十万円、坪四千円で買収していると言われています。

もし、これが事実であるとすれば、朝日興業から木島に、木島から新釜旅館に転売される中で、地価は四倍にはね上がっています。館山市が買収することを予期した土地ころがしではないかという疑いが持たれています。

同時に、抵当権の評価をつり上げているのも、地価を高く売りつける魂胆ではないかと疑われています。

したがって、この疑いを晴らすためには、市が買取する価額を明らかにする必要があると思います。市は新釜旅館より譲渡に依つての内諾を得ていると言っているが、その価額がどのぐらいになるのか。お伺いしたいと思います。

次に、市長は、し尿処理場とごみの処理場を併設すると言っているが、上真倉の予定地に併設する考えなのかどうか。お聞きしたいと思います。

次は、二点の国道一二七号線バイパス建設についてですが、この問題については六月の定例議会でも再検討するよう提起しましたが、市長は再検討する考えはないと答弁しています。

その後、商工会議所を主体とするバイパス建設促進会の名で、町内会が回覧板でバイパス促進の署名を取っていますが、その訴えの内容は一般的なバイパス促進の必要性を強調しただけでも賛成できるような粉飾したもので、事実を無視したものになっています。

計画されているバイパス路線は、市民や議会の知らないところで決定され、一方的に押しつけられたもので、市民の多くに知らされていないために、わからないが署名したと言っている者が相当ありました。町内会を利用した署名の集め方に対し、天下りのひどいという批判が出されていますが、この点、市長はどのように考えているか。お尋ねします。

次に、私は、バイパス路線の必要性を否定する者ではありませんが、計画されているバイパス路線が、館山市の発展と結びつくかどうか疑問に思っております。

現在、鴨川、千倉方面への通過道路は、国道二二八号線で千葉

銀館山支店から六軒町を通過して上野原に抜ける道路で、これに取りつめる那古、船形方面からの道路は海岸道路、国道一二七号線、昭和橋から南町への三本がありますが、計画されているバイパスを加えると四本になります。いずれも一二八号線に集中しておりますが、その距離は同じで、どの路線を取ってもかわりばえがありません。これで、市内の車の渋滞を解消するのには役立たないのではないかと。那古、船形と北条の中間で海岸道路から縦に上野原、萱野に抜ける路線ができれば、市内の車の渋滞は解消されると思います。

計画されている富浦の岡本橋から那古東藤に抜ける道路も、距離にすれば現在の一二七号線も大したかわりはありません。富浦から鉄道線路添いに那古、船形駅前から海岸道路に直結する道路ができれば、一二七号線の船形の川名の渋滞は解消されると思います。

さらに問題なのは、バイパスが南町交差点から上野原まで四、五百メートルの距離の中間で一二八号線に取りつけられ、これからできる館山高、北条小学校、幼稚園、南高と学校群を間を縫って上と下に分断するので、環境が大きく破壊されることは間違いないと考えます。

道路は、生活道路を優先さすべきで、計画されているバイパス道路は市発展の妨げになるのではないかと。このような重要な問題が市民の意見も聞かず、議会にも諮らず決定し、実行するということをする市長はどのように考えているのか、お伺いします。

また、九月十三日館山バイパス反対協議会から九千人の署名による陳情書が提出され、七項目の問題点を挙げて、現在計画され

ているバイパス路線に反対しております。この陳情の中ではバイパスの必要性を否定していません。専門家や市民各層の話し合いで知恵を集めて、よりよい道路の建設についての検討を求めています。市長はこれにどうこたえられるのか。明確な御答弁をお願いします。

(市長半沢良一君登壇)

○市長(半沢良一君) お答えいたします。

衛生センター建設予定地の問題についてでございますが、御質問の土地ころがしというふうなことにござりますが、市がこの衛生センターの問題を具体的な施策として取り上げましたのは昨年の十月からでございます。昨年十月一日衛生課の中に衛生企画係を新設いたしました。担当者を配置したわけで、当初は計画年次、計画規模、補助、起債関係等基本的な事項を調査、検討いたさせました。十一月中旬から候補地選定の作業に入っているわけでございまして、当該予定地は十二月下旬に林地開発、土採取の申請が出され、その段階でチェックされまして、候補地の一つとして加えられてきたわけでございますので、前々からすでにきまっていたというふうなことはないわけでございまして、全くの誤解でございます。

これらのことについては、すでに全員協議会で経過報告を申し上げましたが、そのとおりでございます。

土地ころがしなどというにつきましても、要は最終的に市が幾らで買収するがということが問題になるわけでございます。もし、そのようなことがからんで不当な価値であれば、買収するわけにはまいらないということは当然でございます。したがいま

して、このようなきわめて抽象的な批判に對しましては、地価を査定するための公正な機関を設け、皆さま方が納得のいく適正な価値を決定していただいで解決をいたしたいと考えております。

ごみ処理場、し尿処理場を併設する考えかというお話でございましたが、衛生センター構想は四十九年の議会におきまして御決定をいただきました館山市長期構想に基づくものでございますので、この二つを現在の段階では併設して衛生センターをつくりたいと、べきだと考えておりますけれども、しかし、これはごみ処理場の件につきましては、今後まだ検討の余地がございますので時間をかけて検討をいたしたいと考えております。

それから、一二七号線バイパスの建設についてでございますけれども、これは千葉県の内務の各市町村におきまして、この促進会をつくりまして長年にわたって国に向かって請願、陳情してきたところでございまして、その結果、木更津から館山までの現国道一二七号線の改築計画を建設省が進めてまいりまして、その結果、富浦町から館山までの間を館山バイパスとして建設省の直轄事業として施行するように計画されたわけでございます。

御案内のような、御指摘のようないろいろ賛成の御意見もあり反対の御意見もございますので、先ほど石井議員から御指摘のございましたように、こうした相対立する考え方をいかに調和させていくか。それを、館山市の将来に對する長期的な展望に立って検討をし、この対立の調和を図っていききたいと考えております。

○一八番(渡辺軍治郎君) 衛生センターの予定地の問題についてですが、いろいろと利権がからんでいるのではないかと疑いがあるわけですね。だから、この疑いを、私が聞いているのは

晴らしていくための措置を、市長さんはそういう必要があるんじゃないかというのを聞いてるわけです。

土地ころがしがあるのではないかといいようなことに對しては前からその土地を市が使うというようなことはきまっていたんじゃないと、そういうことを言っても、そうではないわけです。現実に不動産業者から不動産業者の手に移って、価額もつり上げられていくという、事実かどうか、そういうことがあるわけです。それから、それが事実かどうか晴らす必要があると思います。疑いを晴らさなければ、そういう不信任が除かれなければ、話し合いで協力を求めようとしてもできないんじゃないですか。

その点は、市長さんがそういう疑いがあることを、市長さんがこれからどうして晴らしていくかということをお聞きしているわけです。この点は、市長さんはどうおやりになりますか。

それからもう一つ、価額の問題についてですが、価額の問題は新釜旅館と譲渡するということについて内諾を得ておる。どのぐらいの価額で譲渡を得られるのか。その時点である程度つかまないうて、これは問題だと思ひます。だから、こういう疑いがやっぱり出てくるわけです。

私たちが土地を買う場合に、相手の人がどのぐらいの価額で売ってくれるのか。そういう問題がきまらなければ、じゃ買いますよとか、買うつもりでその金策しましょうということにはならないと思ひます。

一番問題なのは、利権がからんでいるという疑いに對してどう取り組み、どう晴らしていくかということが一番大きな問題です。から、市長さんはそれをどういふうに、新聞でもかなり、登記

簿から見たと思ひますが、詳細に出ていくわけですよ。そういう事実をつかんでみんなにやっぱり公表していくようなことをしなければ、あくまでもベールをつつんだ中に置かれていたんでは、この不信任は取り除けない。こう思いますので、この問題に對して、市長はどう対処していかれるのか。そこをお聞きしているわけです。

○市長（半沢良一君） ただいまも御説明申し上げましたように、十二月下旬に初めて候補地の一つになったわけでございます。それ以前の土地の移転につきましては、市は一切関知をいたさないわけでございます。またその後の移転につきましても、市がこれを買収させたというような事実は絶対にないわけでございます。なぜそういう疑いが出たのか、たいへん納得のいかないところでございます。そういう事実がないことをこの機会にはっきり申し上げたいと思ひます。

また、抵当権の問題についてもお触れになったようでございますが、あの抵当権は市の方で調べましたところでは、あの土地だけではなくて、館山の海岸にございます土地、建物等を含めての総額が九千五百万という抵当になつてゐるわけでございます。あの土地自体が九千五百万と評価されてゐるわけではございません。そういう点についてもたいへん誤解があるように、世間のいふゆるうわさの方が誤解があるように思ひます。

最終的に価額につきましては、先ほども申し上げましたように地価を査定するためには、公正なひとつ査定評価委員会を設けて、実際の地価で、公正な地価で買いたいというように考へております。現在の段階では一反幾らで買おうとか、あるいは売る

のかと、売ってくれるのかと、そういう交渉をする段階には至っておらないわけでございます。

〇一八番（渡辺軍治郎君）

いま、登記の評価が違つてるといふいうことですが、その点は川名さんの調査したのだいぶ食い違いがあるわけです。坪数も登記のあれでははつきり出ていると思ふんですが、一万二千五百三十五平米です。この登記の対象になつた面積は、この面積は上真倉の日坂、細田、小池作そういうところの用地のところなんです。こういうのと、たとえば、市長さんの海岸の新釜ホテルも含めた評価だということとは相当違いますから、私が言つてるところは、こういう違いのあるところは晴らして、わかるように事実でとたえなければ疑いは晴れないと思ふんです。

ですから、最初坪三千三百円のもののが評価で言えば二万五千円になつてゐるわけです。登記評価で言えば、市長は買収価額の問題については先にいって公正な審議会を開いて、評価の審議会を開いてきめるといふようなことを言つてますが、大体審議会にいたつたとしても、従来いろいろ評価、土地やなんかの価額評価されている場合に、評価の基準になるのは、その当時の近い時期の実際の売買価額、それから担保に入つてゐる、いわゆる抵当権の評価、そういうようなものが一つの基準にされるんです。公認鑑定士そういうものを依頼するとすれば、必ずそういうものが出てくる。あるいは物価上昇率とかいろいろんなものがからんでかなり高い値段のものが出てくるというのが大体いままでの方針なんです。

市が大体予定地を上真倉にきめてゐるわけです。そこで全員協議会の市長の説明でも内諾を得てゐると言つてゐるわけですか

ら、内諾を得る場合にどのぐらいの価額で買えるものか。それぐらいのことがおおよそわからないで、ただ譲渡する。値段を先にいつてきめるといふことは、ますます疑いを持たれる。

相手が譲ってくれるんだから、どのぐらいの価額で譲つてくれるのか、どのぐらいの価額か。ある程度考え方を持たなければ、値段は先にいつて評議会できめられると言つても、いま言つたやうな抵当権の価額や売買価額、そういうものが実際標準になつてくるわけです。

木島さんについてゐるのは反四百万ですから、木島さんから新釜が買ったのは一万三千三百円です。だから、三千三百円のものが一萬三千三百円になつてゐる。ちょうど登記の時期が三千五百円で登記してゐます。同じ四十九年五月にこれは七千九百七平米に対して三千五百万ですから、坪一万四千六百円、この額はある程度一致してゐるわけです。これだけ昭和四十八年から四十九年五月のこういう中では、四倍に値段がつり上つてゐるわけです。

もし、これが直接売買価額だとすると、担保の、要するに抵当権の価額と、こういうものを勘案すると、結局高い地代が出てくることになつてゐます。評価審議会でやるとしても。

しかし、市はやつぱりあそこ山林が、地元の人が反百万円で売つてゐるわけですから、それが非常に高い価額で市が買つて、自分たちが税金でそれを払わなければいけない羽目に追い込まれると。そういうからんだものを自分たちの税金で払うのはいやだといふそういう考えがあるんです。

ですから、この問題は、はっきりと事実を明らかにして、そして疑惑を解くことをしなければ、いくら市長さんがこれから地

元の人たちと話し合いを進めて了解を求めると言っても非常に困難ではないか。そういうことが考えられるので、市長さんにそういう点では具体的にどうするかということをお聞きしているわけです。もう一回その点、御答弁願います。

○市長（半沢良一君） 先ほど御答弁いたしましたように、最終的に市が幾らで買収するかということが問題になるのだと思うんです。

いろいろ、いまお話がございましたけれども、御説明申し上げましたように、少なくとも昨年の十二月下旬に初めて候補になつてきたわけでございますから、それ以前の土地の移転あるいは価額等については、これはいわゆる土地ころがしなどという問題が起るはずはないわけです。少なくとも、衛生センターの建設に關して土地ころがしが行われたというようなことは考えられないわけでございます。

問題は、最終的に市が幾らで買収するかということが問題だろうと思うわけでございます。それが不当に高いとすれば、土地ころがしというような問題が起るかもしれないんですが、というわけでございますので、またそういう非常に高いものならば、市が買収することができないということとは、これは当然なことでございます。

そういうような意味で、この買収に当たりましては、地価を査定するための公正な機關を設けまして、そうして納得のいく価額で、皆さま方の納得のいく価額で買いたい。そういうふうに考えているわけでございます。

○一八番（渡辺軍治郎君） 答弁は前と変わらないわけですが、地

元の疑いを晴らすためには、土地が移つてゐるわけですから、移る場合には不動産業者だって手数料は取るわけです。売る場合は手数料が加算されたものが移る。相手はその手数料なり、金利を見て土地の上に上るのせして土地の価額というものはきまっています。当然、業者ですから適正な利潤は見なければいけないわけです。そういう経緯は、大体原価幾らで手数料幾らかかって、銀行利子がどのぐらいかかって、その上に適正な利潤がどのぐらいでというようなことが明らかにされないと、不当な値段か、そうでない値段かわからないわけです。

ですから、地元の住民に判断ができるような資料を与える必要があると思うんです。疑いを晴らすには、当然、業者とすればマージンを、そういうものを取るのあたりまえですから、利潤を見るのにはこれは商法でだれだって同じですから、そういうものが不当のものかどうかということがみんなにわからないと疑いを晴らせないと思うんです。

私は、市長さんをお願いしているのは、そういう資料をだれにでも納得できるような資料をつくって、地元の人たちの了解を得てはどうかということ言っているわけです。

市長さんは、ただ問題は、市が買収するときの公正の審議會をつくって、値段はそこできめるといふ一本やりですが、当然そうなると思いますよ。しかし、そこまでいくためには時間がかかるわけですよ。これから話を進めようとしているわけです。疑いのあるものは晴らしていかないと話し合いが進まないではないですか。そういう点、言っているわけです。

それから、処埋場の併設の問題はこれから考えていくというよ

うなことですが、私は江田島も視察してまいりましたけれども、ごみの処理場と、それからし尿の処理場が併設されているそういう衛生センターというのが日本であるのか、ないのか。私はそういうことを聞いたことがないし、見たこともありませんから、違った性質のものが一つに併設されてうまくやっていけるのかどうか。いま市長さん、これから考えてやっていくということですが、そういうことがあるのか、ないのか。一つ聞きたいと思っています。

○市長（半沢良一君） 土地の移転があったことは事実でございますが、それは普通の不動産の商取引でございますして、いわゆる疑問を持っていらっしゃるような土地ころがしなどということとは実際関係ないわけでございます。そういうことで、これを果して普通の商取引を公表することがいいのかどうか。検討いたしてみたいと思います。

それから、衛生センターのことにつきましては、これは渡辺議員さんも議員として御参画なさったわけでございますが、四十九年の九月議会から長期計画決定いたしましたわけでございます。その長期計画には衛生センターをつくるべきだということになっていくわけでございます。そういう考え方に基きまして、衛生センターというものをつくるべきだと私はいま考えているわけでございます。

全国的に西方を併設したものがあつかうかということとは、検討いたしましたこととございません。ただ、考えられますことは、衛生センターとしてごみ処理場とし尿処理場を一緒にすれば、いろいろの管理部門でプラスがあるんじゃないかとい

うふうに考えております。

○一八番（渡辺軍治郎君） 価額の問題では、市長さんこれからそういうことを考えていくことですから、商取引ですから、これは商取引には違いないわけですから、しかしわずか一年ぐらの間に本島に土地が移って、新釜さんに土地が移る場合に、坪三千三百円のものが一万三千三百円というふうに地価が上っているわけです。当然、取引ですから、原価に対して手数料、銀行利子そういうようなものを加算して利潤を見て売られているというのは、だれが見てもそのとおりだというふうになれば疑いは起こらないと思います。

そういうようなことを地元の人たちに話さないと、朝日興業から新釜と両方にいってゐるわけです。それがすぐ返ってきて、登記の面でも一万四千円で登記されているわけですから、そういう点で疑いが持たれている問題は商取引の問題で、事実はこちらなんだという話を話す分にはいいと思うんです。そういう点では、そういうことを実際に進めて地元の疑いを晴らすような、不信感を取り除くようなそういうことはやるべきだと。そういうふうにお願ひしておきます。

それから、併設の問題ですが、これは全国でも例がないように聞いているわけですが、地元としてはごみの処理場とし尿処理場というような別々のものを、やっぱりみんな真倉に持ち込まれるということで、地元が衛生区になるのではないかという、非常に市全体を見ても真倉だけに集中されるという不快感が非常に強いわけです。

ですから、つくるとしても、たとえば、用地の問題もさつき挙

けましたけれども、これからどうなるかわかりませんが、
きまった用地の中に二つやって完全に、理想的に公害も何もない
美観から見ても真倉が将来発展する妨げにもならない。そういう
ような確認が地元の人たちに理解されなければ併設ということも
むずかしいと思うんです。

だから、そういう点は、市長さんは四十九年の議会というよ
うな、これは五十年三月の議会でも衛生センターをつくる構想は
共同下水道の問題で基本構想は示されていますが、併設というこ
とはあの中には、はっきり書いてありませんが、市長さんの言葉
の中では併設することになっておりますから、この問題は
地元とすればかなり関心の強い問題だと思っております。

市の地域的の条件から考えて、あそこに一カ所にした方がいい
か、別々にした方がいいか。これは収集車の運行の問題がからん
できますから、マカ所に集中する。しかも道路は狭くて本数が県
道一本しかないというようなことで、この収集車の運行をどうし
たらいいかということもからんで、一緒にした方がいいか、それ
とも別にした方がいいか。これはまだ将来検討する問題だと思
いますが、そういう点を市長さんがある程度はつきり腹の中にきめ
て地元の人と話し合わないと、話し合いはうまく進まないのでは
ないか。こういうふうに考えますので、その点はひとつこれから
十分検討してもらいたい。

それからもう一つ、バイパスの問題ですが、これは石井議員か
らかなり路線の問題で四車線を二車線にできないかというよう
なそういうことが質問されましたが、市長さんは計画の変更はでき
ないと、やる考えはありませんと、こういうふうに言ってるわけ

です。

市長さんの考えというのは、六月の議会から今日までそういう
点では基本的には変わっていないわけですよ。建設省がきめた
わけで、きめ方は市の道路計画そういうものにも添ってきめたん
だから、私はそれを促進する努力をするということですから、そ
こから一歩も出ないわけですよ。きまったことはやるんだと。

私は、建設省の千葉国道事務所に行つて、所長さんに会つて聞
いてるわけですよ。この路線の変更はできないのか。路線の変更
はできないと所長も言ってます。自分たちのきめたことをそう簡
単には変更しないというのが大体為政者の立場だと思つて
しかし、そのきめ方が地域の住民の了解、理解そういうものを得
てきめたのなら別ですけども、そうでないんですから、全然
地元の意向も聞かなくて、議員も知らないところできめたやつを
建設省がきめたからそれを絶対やるんだというようなことでは進
まないと思つてます。建設省のきめ方、考え方もおかしいと思
つてます。

新しくできる国道は四車線、この点については建設省も、県も
一致しているんだ。所長の答弁はこうなんです。事実上はどこで
も四車線でいいかどうかということになると、その地域の実情
によつては違つてくると思つてます。事実上でも二車線のところ
もある。四車線のところもある。地域の実情に沿つてそういう
ことをきめているわけですよ。地域の実情を無視して物事をやつた
ら私は失敗すると思つてます。一番地域の条件を知ってるのはそ
この住民ですから、私は館山に七十年住んで、実際にこの土地
に育つて、道路のできるそのへんに若い時分住んでたわけですよ。

考えたって、南高のすぐ上に、上野原の中に四車線の道路ができたら、あの地域は分断されて発展はとまります。実際よそに行っても、四車線の道路ができたところは地価が下ってだれも住み手がないというのが実情です。

だから、館山市の発展と道路の問題は非常に重要性がある。私たちは生活道路を優先し、それを充実すべきだと考えているわけです。いまある昭和橋通りは生活道路で建設されたと思う。館山市が発展していく上で重要だと思う。生活道路として。

今度、国道になって四車線になりますと、生活道路が性格の変わったもので破壊されるわけです。しかも正木からあそこにくる道路というのは非常に重要な、館山の発展のために重要な道路だと思いますよ。それがそういうバイパスによって妨げられる。横に広い地域が上と下に分断されるということとは必ずしも館山市が将来上の方に発展していくことを考えればプラスにならないのではないか。こういういろいろな意見があるわけです。

市民の中には、それには萱野に抜ける線を考えたかどうかとがいろいろの考えが出てくるわけです。全然そういうことを地元では話し合いをしないで、建設省がきめたからそれをやるんだということは、館山の将来の発展にとって悔を残すことではないか。

市会議員として、当然館山市の発展と道路というのは、館山市の発展にとって非常に重要な問題ですから、そういう点について深く思いをいたすので、その問題は、市長さんが石井議員の答弁で間に入って何とかやっていこうというような考えが示されましたが、しかし、市長さんの考えの中では、いまきまった路線を促

進するんだという考えから一歩も出ていない。

ですから、現在きめた、計画されたバイパス道路がいいのか、わるいのかという点がまず一つあると思うんです。そういうことははっきりしないのが一つ。

これは上との間できめられたわけですから、そういう点について私は市長さんと話し合いをしたことがあるんですが、これは市長さんも覚えていらっしゃると思うんですが、今年の一月六日予算要求で市長さんと市長室でテーブルコーダーを前に置いて話し合いをしたときに、そのときのあれを示しますけれども、市民の民主的自治権を発展させるためにという項目の中で、第一番に、都市計画やバイパス道路の建設等市民の生活と権利に大きな影響を及ぼす施策を実施するに当たっては、原案段階から市民の意見を広く求め、議会の承認を得て実施するなど、市民の納得と協力を基本にする。こういうことを市長さんと話し合ったわけです。市長さんそのとき、全くそのとおりだと、（笑声）というふうに話し合いの中では言ってるわけです。

今度の国道一二七号線建設に当たっては、そういうような形でやってないんですよ。やっぱり館山市の発展とか、市民の権利とかそういうことを重視すれば、為政者となればそういう立場に当然立つべきだと思うんです。

そのところが、まだはっきり石井君の答弁の中でも、私の答弁の中でも、これから建設する段階で考えていくとか、実際にはもう測量やって、やろうという差し迫ったところですから、地元の人たちが心配するのはあたりまえの話なんです。

私たちは政党ですから、政党としても道路政策、館山市の発展

のためにどういふ道路政策を持ったらいふかということを検討して、市長さんにも一月六日に党の立場を市長さんと話し合つて、市長さんも了解しているわけですから、こういう立場に立つて主権在民といひますか、本当に住民の立場を尊重して、この問題は時間がありませんから、ひとつ十分考えていただきたいと思ひます。

それから、市長さんの答弁の中で漏れた問題が一つありますので、パイパス運動の進む中で、商工会議所が主体になつて町内会を通じてこういうやっぱり訴えですか、文書を署名簿と一緒に町内会長を通じて各町内会で回覧しているんですよ。私も聞いてみますと、知らない人が多いわけですよ。この文書で見るとみんな賛成するやうな文書ですよ。パイパスは必要だといふ、そういうこの文書でいけばだれだって思ひますよ。反対のことを話すと、そういうことは知りませんでした。實際計画されているパイパスの問題については知らないわけです。だから、隣が署名しているからといふことで、署名が次々に回覧板を通じてやられているわけですよ。

こういう署名のやり方でいいかどうかといふやうなことは、市民から天下りのでひいではないかといふ批判も出ておる。商工会議所は市長さんと非常に密接な関係もありますし、(笑声)町内会長は行政委託料もらつて市の行政の足に使われているわけですから、当然上意下達といふやうな形で、市長が考えるきまつたことを推進するやうな、そういう方向に持っていられるといふやうなそういう疑ひも持たれるんです。こういう署名のやり方は、おそらくこれからも、またさつき石井君が言つたやうに、署名合

戦のやうな形で続くかもしれませんが、この署名のやり方を市長はどのやうに考えておられます。

○市長(半沢良一君) いまのパイパス賛成の署名の件でございすが、それぞれの発起人が主体的にやつてゐることで、市は一切関係がございせんのでお答えいたします。(笑声)

○一八番(渡辺軍治郎君) 私が聞いているのは、署名といふのは私たちがいふんやりしますけれども、行つて、会つてこっちが向かうにわかるやうに話をして、向かうの質問に答えるといふやうな形で署名はやられるのが普通なんです。回覧板でもつてずつとこの前犯運動を進めるときに、回覧板で二万ですか、署名が集まつた。ああいう形でやれば署名集まつますよ。中身はそういう形でやつてどうか。署名がこれだけ集まつたからといふやうなことは解決しない問題だと思ふ。そのところをさつき石井君も心配してゐたと思ふんです。

市の方からやりましたものではないと言つても、現実はそういう形になつておりますので、こういうやうなやり方で署名の集め方はまずいのではないか。本当に九千集めたといふ反対協議会の方たちは、反対の側は九千集めるのは容易じゃないと思ふんです。話を聞いて見ると、それこそ朝から晩まで足をすりこぎにして訪問して理解を求めて署名をもらつてゐるわけですから、真剣な署名の集め方だと思ふんです。

それと違つて、回覧板で署名を取るといふやり方がいいか悪いか、私ははっきりしてゐると思ふんです。そういう点では、市長さんの考えは非常にあいまいだし、悪いなら悪いで(笑声)はっきりすべきだ。

時間が来ましたので、このへんで終ります。

○議長（吉田勇治郎君） 午前の会議はこれにて休憩とし、午後一時三十分開会といたします。

午前十一時四十三分 休憩
午後 一時三十一分 再開

○議長（吉田勇治郎君） 午後出席議員数二十六名、休憩前に引き続き会議を開きます。

一四番議員石井輝久君。

（一四番議員石井輝久君登壇）（拍手）

○一四番（石井輝久君） 私は、今次定例会に提案されました案件の審議に先立ち、当面しております最も重要かつ重大と思われる数点について半沢市長の御所見を伺いたく、ここに質問申し上げる者であります。簡明、率直なる御答弁をわずらわしたく存ずるのであります。

まず初めに、昭和四十九年度から五十年度に移行する際に生じた三億を越える歳入欠陥のため、五十年度の予算から繰り上げ充用しなければ財政運営できないという非常かつ異常なる事態を招き、さらに一年を経過し、なおかつ収支まかなうことができず、昭和五十年度の最終予算におきましては二億六千四百余万円の減額をして、辛うじてつじつまを合わせ、当年度に入ったというまさに破滅ないしは破局的な事態に達し、今日を迎えている現実を直視しつつ順次質問を進めるつもりであります。

質問の第一点は、目下市財政で生じている、いわゆる赤字と称すべき金額は概算で五億になんとすると試算されるのであります。一体幾らの赤字を抱えているとお考えでありますようか。

またこれをどのような計画で解消しようとしておられるかについてであります。

なにしろ、福祉の見直しという名のもとに、社会的弱者の立場にあるお年寄り、また年若い主婦に対する施策を削り取り、弱い者いじめをする半沢市政の印象を市民の心に刻みつけているのであります。その原因は一にかかって財政窮乏にあるとして、市民の関心が財政問題に集中しているのであります。こういう際でありますので、どうか率直なる答弁を要求する者であります。

第二には、この財政の窮乏から脱却するための新たな財源の捕捉についてたださんとする者であります。

私どもは、手をこまねいて景気の回復を待っているだけではなりません。みずから手で積極的に新しい財源を捕えるべく血のにじむような懸命な努力があつてしかるべきでありましょう。

現行体系の中で、まず市民税所得割で、窮乏する市財政に御協力をお願いする意味から、高額所得者の税率を引き上げること了承してもらおう。法人市民税をこの際、現行百分の十二・一を制限税率の百分の十四・五まで引き上げること了承してもらおう。固定資産税のうち、減免している幾つか、そしてまた脱漏しているものなどの精査による税収のアップを期してもらおう。

こういった切った政策をとることによって、弱い者いじめの半沢市政、そしてまた商工業者出身であり、商工会議所会頭をやっていたのだから、法人市民税に手を加えることはできないだろうなといった市民のあきらめにも似た虚無感に対し、決断をもって、そんなことはないんだ。おれはやっているんだという実を示してもらいたい。これらの点について、検討の結果についてお

答えをいただきたいのであります。

引き続き、行財政機構の合理化、簡素化による行政効率の改善についてであります。すでに第一次として現業部門だけに手を染められました。しかし一般行政事務部門には全く立ち入っていない。いまのままで土木、建築、農林、水産といった現業技術部門待遇のそしりを免れません。

去る三月議会の市長の施政方針でも「今後さらに全面的な機構改革について検討する所存であります。」と、決意のほどを示しておられました。その検討の成果について伺います。

第三には、館山市開発公社の借入金と返済方針についてであります。

過般、私も反対した市民センター冷房装置等に要する六千四百万円は、多数の力をもって押し切られて可決されてしまった。その支払いは市の財政の中から捻出することができず、開発公社に回してしまつた。工事は完了した。私は爾来あの市民センターに足を踏み入れることを快しといひません。この市政窮乏の折柄、市民が夏の間汗水たらして働いているのをよそに、どうして冷房の効いた市民センターで涼しさを求め、心を休めようという心境になれるでありませんか。要は市民に対する思いやり心の問題であります。

それは一応おくといたしまして、多数の議決をもって押し切つたおかげで、市民は三百八十万円にも上る借入金利息を負担することになってしまった。そして、いまだ十億を超える借入金を抱え、利息で首を絞められてにっちもさっちもいかないこの公社の首をさらに絞める結果を招いている。

そこで、借入金の総額は幾らか、その利息計算は幾らか。どのようにして返済しようとするのか。具体的にお答えいただきたいのであります。

さて、質問の第四点であります。以下第五、第六と続く一連の質問は、具体的にまた詳細にわたりますので、答弁漏れのないようあらかじめ要望しておきます。

第四の質問は、市が衛生センターに予定している真倉字日坂並びに小池作の土地二万五千九百九十一平方メートル、坪に換算して七千八百七十六坪についてであります。以下お断わりしておきます。どうも平方メートルでは私にはびんときませんので、大変恐縮でございますが、坪換算の質問を続けますので御了承をたまわりたいのであります。

私も民社党は、市民生活にとってし尿とごみ処理が避けることのできない重大な問題であるとの認識に立って、党内に特別調査機関を設け積極的にこれに取り組んでおりますが、この土地の買取折衝に当たっては、まずもって関係住民との完全なる合意が必要であるかと存するのであります。

そこで、市長はどのようにして地元の合意を得ようとしておられるかについての御所見を伺いたい。次に候補地の物色はいつ頃から始めたのか。さらには、それ以前には土地の選考は全く白紙だったのか。それぞれごく簡単にお答えいただきたい。

続きます。そもそも予定している七千八百七十六坪のうち、昔からの地主さんが所有しているのは二千七百八坪で四人、残余の五千六百六十六坪の内訳は有限会社新釜旅館三千三百七十八坪、吉田新一さん九百五十三坪、朝日商事株式会社八百五十三坪となつ

ており、いずれも昭和四十八年七月三十一日以降にそれぞれ土地を取得しているのですが、この事実関係を承知しておられるか。

また、すでにその当時、計画を先取りして関係者が思惑でうごめき、土地の買収を始めたのではないかと疑いがありますが、その点、いかがお考えになりますか。簡単に答え願いたい。

次に進みます。有限会社新釜旅館が持っている三千三百七十八坪のうち、千四百四十二坪は朝日興業株式会社から昭和四十九年五月二十九日に買ったものです。また新釜の代表者の吉田新一さんの九百五十三坪も四十八年七月三十一日に朝日興業から手に渡ったものです。

これを要するに、新釜関係の七割強は朝日興業から渡ったもので、真倉地区の関係者の疑惑の眼は何かあったのではないかの一点に集中されているのが事実ですが、この土地の移転に関する私が指摘しました事実関係、土地の移転に関しての事実関係を市長は承知しておられるかどうか。お答えいただきたい。また同時にこの疑惑に対しての率直なる御所見を承りたいのであります。

次に、これは私どもかなり深刻に考えているのであります。昭和五十年十二月二十日以降の移転が九件に上り、うち七件が新釜であり、他の二件は朝日商事株式会社だった事実、明らかに市の計画が漏れたのちのことだったように見られるのであります。この土地移転の事実関係を承知しておられるか。伺います。それ

が一点。
もう一点は、こうなると、市当局と共謀してという表現はどぎつ過ぎるかもしれませんが、市が買収せしめたのではないかと

疑惑も抱かざるを得なくなります。これについての簡明なるお答えをわざわざしたいのであります。

さらに続けます。新釜に渡っている土地のうち、不動産会社の手を通じないで地元の善意の旧地主三人から直接売り渡されたものが千九百七坪。しかも計画が明らかになりつつあった昭和五十年十二月二十日から今年の七月一日までに、沼の総持院の山林二百十六坪を含め七百十九坪が渡っている。これは前項の質問にも関係いたしますが、この事実関係を承知しておられるか。伺いたいのです。事実関係と同時に、市が介入したことはないか。また、なぜこの時点で市当局が買収行為に乗り出さなかったのか。ついで、もしこの時点で市が乗り出していれば、この七百十九坪と、朝日商事に今年六月四日と七月一日の二回にわたって買われた八百三十五坪、合わせて千五百五十四坪については納税面でも優遇措置が講ぜられたはずでありましょう。仮定であります。千五百五十四坪について一般の売買と市が買い上げの場合の税金の差を一算して試みに提示していただきたい。

続いて、新釜が新たに手に入れた五百三坪については農地であって、これを仮登記している。有限会社新釜旅館は農地法に抵触しないか。以上、簡明なる御答弁を求めるのであります。

また、有限会社新釜旅館と吉田新一さんはそれぞれ不動産取引業者であるかどうか。朝日商事株式会社と朝日興業株式会社は同じ系列会社であるかどうか。御答弁をわざわざしたい。調査しなければそのようにお答えをいただきたいのであります。

続きまして、新釜と吉田新一さんの真倉の土地とともに、共同担保として市内館山字東大浜千五百六番地の吉田さんの居宅並び

に店舗、旅館等に対して根抵当権が設定しており、その限度額はいずれも九千五百万円になっている事実を存じかどうか、伺います。

さらに、私どもの調査では、東大浜の土地二百四十四坪は、付近の売買実例からする評価額は坪当たり十万円として、融資額はその八割、千九百六十万円、家屋建坪三百九十六坪、売買実例から坪当たり十五万円としてその八割で四千七百五十二万円、合わせて六千七百十二万円がこの物件からくる融資額と私どもは判断しているのですが、そうなると、真倉の土地に対する融資推定額は、私どもの試算では坪当たり三千円を割ることになるのであります。この点に対する御所見如何。

おそらく、真剣かつ慎重しかも優秀なプロジェクトチームがおりますので、この程度の調査は対地元との折衝の準備として完備されておられることであらましよう。

最後に、県立館山高等学校の敷地造成工事の完成は一日も早くらんことを期待している一人であります。この真倉の土地の折衝がとんざすることによって造成用の土砂の搬出が思うにまかせないと聞きますが、これが事実関係の御説明を伺いたい。同時に進入路に貸すと地主が約束し、その代価として金品を受領しながら、それを新釜に返しに行き約束を破棄しようとし、もって館山高校の敷地造成に支障を及ぼしているような事実の疑いを耳にするが、この点についての御所見を承りたいのであります。

次の質問は、現在稼働中のし尿処理場に関してであります。まず、事実関係を伺います。敷地面積千八百七十二坪、処理能力日量四十五キロリットルの施設を工費八千二百九十八万四千三

百九十四円で昭和三十七年二月五日から三十八年四月十五日にかけて守住工業株式会社が建設し、今日に至っている。これに間違いないかとあります。

続いて、用地は昭和四十三年三月三十日二百三十一万五千九百二十四円で売買契約を結んだ。その面積は一町三畝であり、今日に至っている。この事実関係に誤りはないか。

ついで、現在の所有者はだれかを伺います。ごく簡単に結構です。

ついで、当時、地元との間に将来にわたっての条件等何らかの契約文書が締結されていたかについての事実関係の質問であります。

続いて現在の稼働状況の実態について伺います。処理能力、臭気、放流水の着色の度合い、BOD、SSについて伺います。

そして、バンク寸前にあるのかどうか、私どもは深刻に憂慮しているのですが、この点いかがなものでありましようか。

最後に、近い将来の建設構想すなわちいつ、どのぐらいの規模で、どんな施設を施さんとするのであるかを伺います。同時に、現在の施設は機種の選定委員会を設けて決定したと聞いておりますが、前例に従って選定されるおつもりかどうか、御説明を伺って次に移ります。

次は、ごみ処理場についてであります。これは日本電建株式会社昭和四十一年三月七日から同年十月三十日にかけて建設したものであります。この会社こそ過般ロッキード事件で司直の手をわずらわした前総埋田中角栄氏の経営になるもの。また同氏の甥の友小佐野賢治氏の手に渡った会社であります。

そこで、伺います。当時、機種決定に至った経過を伺いたいの
であります。

続いて、土地は全部河川敷と聞いていますが、そのとおりであ
りましょうか。また、市当局と地元との間に将来にわたって何ら
かの取りきめた文書を取り交わしたことがあるか。あったらその
骨子をお示しいただきます。

また、現況はどうなっているか。すなわち臭気、粉じん、空気
汚染の実態、果してバンク寸前の状態にあるのかどうか。

この項の最後の質問は、近い将来の建設計画について、いつ、
どのぐらいの規模で、どんな施設を考えているか、御説明を承り
たいのであります。

さて、質問の趣を一転いたしましたして、市長の三月議会における
施政方針にも打ち出されている救急医療体制に関連いたしましたして、
私はその補助金について最後にたださんとする者であります。

この業務の緊急性、重要性につきましては、いまさら申し上げ
るまでもありません。そして、救急医療体制について医師会の御
協力をいただいていることを多としつつ以下順次質問に入ります。
本市の救急医療につきましては、昭和四十九年度から市費百六
十一万七千円の補助金を医師会に交付することによって始まった
わけであります。続いて昭和五十一年三月三十一日安房郡市広域
圏事務組合から医師会に対し、国家消防庁による救急業務協力推
進費補助金制度新設に伴って三百万円を交付したのが二回目であ
ります。

質問の第一点として、広域圏組合と医師会との業務提携文書の
概要の説明を要求いたします。

第二点として、この補助金の目的を示していただきたい。

第三に、去る三月議会における私の質問に対する答弁で「なお
従前支出いたしました補助金、その効果等については医師会との
密接な連絡をとり、十分その成果の上る方法で、その確認と申し
ますか、その内容調査等は連絡をとりまして実施いたしております
」としておりましたが、内容調査をした結果、どうなっていた
かについて伺います。

第四に、交付された補助金は、その半額を高等看護学院の運営
に充当していると聞いているのでありますが、これは補助金の使
途が全く目的外であり、補助金交付目的を逸脱している重大問題
であると思われるのであります。前項と重複しているかのように
見られましょうが、別個にその事実関係をたださんとするもので
明確なる御答弁を求めたいのであります。

第五に、伝えられるところによりますと、かつて文教常任委員
と医師会役員との懇談の席上、暗黙のうちに目的外支出すなわち
救急医療の搬送業務に使うのではなく、その半額を高等看護学院
の運用のために使うべく学院予算に計上することを認めたやに伺
っております。これが事実関係を伺う者であります。

以上をもって質問を終え、半沢市長の答弁を求める者でありま
すが、なにしろ、多岐多項にわたりますので、大変早口で聞き取
りにくく申しわけなく思っております。

(市長半沢良一君登壇)

○市長(半沢良一君) お答えをいたします。

御質問の大きな第一点は、館山市一般会計予算の赤字の現況と
その解消方針についてということですが、昭和四十九年

度の赤字補てんのため、五十年から三億円の繰り上げ充用をいたしたわけでございますが、これらの赤字につきましては五十年中に解消すべく努力したのでございますが、経済の不況に伴い全国の地方公共団体において地方税、地方交付税、競輪収入等が大幅に減少をするという異常な事態が生じ、多額の財源不足となりました。

しかしながら、二年続きの赤字決算はできるだけ避けたいと考えまして、市民生活に直接影響を与えない負担金及び開発公社の支払いについて、支払い繰り延べ措置を講じた結果、形式収支で三百八十万円の黒字となったわけでございますが、実質赤字は三億三千万円になります。この数字は過去からの累積額でございますので、したがって、この解消につきましては簡単にはいきませんので、長期的な見通しのもとに欠員不補充、希望退職者を募るなどの措置を講ずるとともに、適債事業の選択、受益者負担の適正化を図り、また経常的経費の節減に努めるなどの努力を重ね、逐次解消に努める所存でございます。

質問の第二、新規財源の捕捉と機構の簡素、合理化についてでございますが、総論といたしまして、現行地方税法におきましては、新規財源に充当できる税源の捕捉は非常に困難であると考えております。この点につきましては、政府におきましても地方財政政策上の重要なポイントでございますので、税制調査会等において真剣に検討されている現況でございます。

各論といたしまして考えますに、石井議員の御質問の論旨もありますように、地方税制の範囲内において十分検討いたしたいと考えております。

御指摘の超過課税でございますが、これにつきましても三月にお答えいたしましたとおり、中小企業の現況を考えますとき、いまだ少し検討を続けたいと考えます。

次に、機構の簡素、合理化方針のことでございますが、都市経営を再評価する中で、機構についても検討を加えているわけでございますが、市民が直ちに求めている行政は何であらうか。またこれを効果あらしめるためには何をなすべきかを十分見きわめながら、現状の職員でさらにきめ細かに行政の質と効果をより高めるべく、現状の分析作業中でございますが、実施可能なものについては逐次行っておりますので、御了承いただきたいと思います。

質問の大きな第三点、開発公社の借入金と返済方針についてでございますが、開発公社の借入金は八月末日現在十一億五千八百万円でございます。うち約七億九千万円が市の債務負担行為に基づくものでございます。五十年末市返済元利合計で三億八千六百万円でございます。順次年次計画により返済計画が定められております。

質問の大きな第四点は、衛生センター建設予定地の折衝の現況と見通しについてでございますが、どのようにして地元との合意を得ようとしているかという御質問でございますが、地元真倉地区につきましては、去る八月五日区役委員会を開いていただきまして真倉地区内に予定地を選んだ理由並びに経過説明と、御協力方の説明を申し上げたわけでございます。いろいろ御質問、御要望等もございましたが、この問題については二度と話し合い必要なしということと事前に決議されておりましたように、会議のまとめといたしまして、その決議の再確認ということとで終わってしまっ

わけでございます。

その後、市といたしましては、広報紙上を通じ、し尿、ごみ処理対策の窮状を訴え、また真倉地区の全世帯に対し、郵送文書により御理解、御協力を求めるための方法を講じてまいりましたが現在のところ具体的な進展には至っておりません。

周辺地区につきましては、隣接の区、町内会長さんに御協力をお願いいたしておりますが、そのうち岡田、青柳、下町の三区については説明会を開いていただいております。これら三地区の皆さんの御意見で共通意見として出されましたことは、し尿、ごみ両施設の併設は問題があるということでございますが、これについては今回は問題をし尿処理施設のみにしぼり、ごみについてはし尿が解決したのちに改めて話し合うということを進めております。

また、岡田、青柳地区では農業用水の影響ということでも心配されておりましたが、これは当初から絶対迷惑をかけないという計画でございますので、今後話し合いを重ねることにより御了解が得られるものと考えております。

今後の見通しということでございますが、現時点ではいつまでに解決するかというふうなことにいつての時間的な見通しはきわめて困難な状況にあると考えております。しかし、各地区の皆さん方も必要不可欠な施設であるということ、それから現施設の状況からして、早急な対策が必要であることなどは十分に御理解をいただいておりますので、これらの住民の皆さん方に御納得いただけるまで繰り返し、誠意と熱意をもって呼びかけ、話し合いを進めてまいりる所存でございます。

真倉、岡田、出野尾の三地区からは白紙撤回あるいは反対の請願も出されておりますが、それらの内容も十分踏まえて一つ一つ解決していくことにより、必ずや御理解いただけるものと信じております。

候補地の物色はいつ頃始めたかということにつきましては、昨年十月一日衛生課内に衛生企画係を新設、担当者を配置し、基本的事項を調査、検討させ、十一月中旬から候補地の選定作業に入ったわけでございます。

それ以前は全然白紙であつたかどうかということにつきましては、衛生センターの設置は急務でございますので、昨年四月課長を配置がえをいたしました際、指示をいたしましたのが、問題が非常に大きいために専門の担当を置かなければ無理のように思いましたので、十月一日から係を設置いたしましたわけでございます。したがって、それまでは白紙同様であつたと言えます。

予定地内の所有者、すなわち昔からの地主四人に、新釜さん、吉田新一さん、朝日商事さんについて事実関係を承知しているかと、すなわち四十八年七月三日以降の売買について承知しているかということで御質問でございますが、登記簿によって承知をいたしております。

計画を先取りして買収した疑いもあるが、どう考えるかということについては、候補地の一つとして加えたのが昨年十二月中旬でございます。計画を先取りして買収したとは考えられません。

新釜及び吉田新一さんの所有にかかるとは、朝日興業から渡っているものである。この土地の移転に關しての事実関係を承知しているかという御質問でございますが、承知をいたしております。

す。

また、これらの疑惑に対する所見はどうかということでございますが、市といたしましては、疑わしいようなことは全く考えてもみなかったことでございます。これは所有権の移転が昭和四十八、四十九年ということでございます。市が衛生センター建設について具体的に取り上げていない時期でございます。その点から御判断をいただけるものと考えます。

昭和五十年十二月二十日以降の所有権移転が九件あるが、市の計画が漏れたと思うが、この土地移転の事実関係を承知しているかという御質問でございますが、土地移転の関係につきましては承知をいたしております。しかし、市の計画が漏れたとは考えておりません。

また、さらにそれは市が買収させたのではないかという御質問につきましては、そのような事実は全くございません。

計画が明らかになりつつあった昭和五十年十二月二十日から七百十九坪が業者以外のものから新釜に渡っているが、この事実関係を承知しているかという御質問でございますが、これも承知をいたしております。

この点について、市が介入したことはないかという御質問でございますが、全然介入はいたしておりません。

なぜ、この時点で市が買収行為に出なかったかという御質問でございますが、この時点では候補地の一つとして加えたばかりでございます。この場所にきまるかどうか全くわからない状況でございます。

市が買収した場合、税金面ではどう違ってくるかという御質問

でございますが、公共用地として市が買収した場合は、譲渡所得に関する面で三千万円まで特別控除が認められております。

農地が五百三坪あるが、新釜は農地法に抵触しないかということにつきましては、仮登記はしてございますが、農地法には抵触をいたしておりません。

新釜と吉田新一さんはそれぞれ不動産業者かという御質問でございますが、この点については確認をいたしておりません。

朝日興業と朝日商事は同じ系列会社かどうかという御質問でございますが、これについては判断をいたしかねます。

新釜と吉田新一さんに関して、それぞれの居宅、旅館等が真倉の土地とともに九千五百万円の共同担保として根抵当権が設定してあるが、これを承知しているかという御質問でございますが、承知をいたしております。

それに関連しまして、真倉以外の物件の価値からして、真倉の土地の推定坪単価は三千数百円と思うがどうかという御質問でございますが、どこの物件について金融機関がどのような評価をしたか、非常にむずかしい問題でございますので、所見と言われなくても現時点では何とも申し上げるわけにはまいりませんが、確かにそのような計算もできるわけでございます。貴重な御意見として承っておき、今後の評価につきまして参考にいたしたいと考えております。

今後の問題につきましては、売買価額については、先ほど渡辺議員にもお答えいたしましたように、公正な機関によって適正な評価をお願いしたいというふうに考えております。

館山高校の敷地造成について支障が出ているということで、こ

それが事実関係の説明と。土石採取、運搬のための進入路の地主さんが賃貸契約を破棄しようとしたために、支障が出てきたというようなことを聞いているけれども、これについての所見という御質問でございましたが、館山高校の造成について当該土地の土を埋め立てに使用することは事実でございます。そして、それを市が衛生センター敷地の予定地としたために、土採取に同意を得てあった隣接地主さんから反対され、これが計画どおり進んでおらないという点は承知をいたしております。安房支庁長は、現況のまま放置すると災害のおそれがあるということで、措置命令によるあと処埋をいたしている現況でございます。市が衛生センター用地として選んだことと、館山高校敷地埋め立てのための土石採取ということは全く関係のないことでございますが、たまたま時期が一致をいたしたために疑惑を持たれていることは、まことに残念なことだと考えております。

質問の大きな第五点は、し尿処埋施設の現況と建設計画についてということでございますが、現在の施設の事実関係につきましては、御質問のとおりでございます。

また、用地の買収契約の事実関係につきましても、おっしゃるとおりでございます。

現在の所有権はだれかということにつきましては、売買契約は完了し、対価も支払ってございますが、昭和三十八年に実施しました畑地かんがいに伴う区画整理の登記がしてございませんでしたために、現時点では所有権移転登記がなされておりませんので旧所有権者五名になっております。

地元と将来にわたっての条件等契約文書が取り交わされていた

かどうかということにつきましては、土地売買契約付属書として取り交わされております。

現在の施設の処埋能力、臭気、放流水の着色の度合い、BOD、SSの現況につきましては、処埋能力一日四十五キログラムのところへ、四月から九月までの平均では八十二キログラム投入いたしております。臭気は日によっては場外までにおうことがございます。色は赤褐色をいたしておるわけでございます。去る九月九日の調査では、BODは末端放流口で一四四PPM、河川水で希釈された河口では二三PPM、SSは放流口で一九二PPM、河口で六七PPMとなっております。

パンク寸前であるかどうかということにつきましては、新設後十三年を経過し、しかも当初よりの投入量の増で限界にきております。

新しい施設をいつ、どのぐらいの規模で、どんな施設を建設しようとしているのかという御質問につきましては、計画では五十一年度で用地を買収、五十二、五十三年に施設を建設し、一日百キログラムの計画をいたしております。施設につきましては、特に臭気対策と放流水の放流先の水質保全に万全を期し、場外はもちろん場内でもにおいのない、そして現段階では国、県ともにまだ規制をしていない窒素、磷の除去装置等ほとんど透明に近い水にするための脱色装置等を加えた最高度の処埋施設を計画いたしております。また、場内及び周辺の環境保全についても緑化、苑地等により、この種の施設の従来のイメージを一掃しようと考えております。

また、機種種の決定に当たりましては、前例に従って選定委員会

を設置してきめるかどうかについては、清掃審、議会常任委員会等の御意見を聞きながら、今後検討してまいりたいと考えております。

質問の大きな第六点でございますが、ごみ処理場の現況と建設計画についてでございますが、現在のごみ焼却炉を建設する際、機種決定はどうなっているかという御質問でございますが、当時の会議録によりますと、工事指名参加願いの出されました十二社の中から実績のある六社を選び、それぞれの建設した施設を視察、調査ののち、そのうち五社を選んで説明会を開き、さらに三社に選ばって概算見積りと再度の説明を求め、最終的には審議会の全員一致で日本電建にきまったというようになっております。

用地は全部河川敷かという御質問でございますが、御質問のとおりでございます。

市と地元との間に将来にわたって何らか取りきめた文書が交わされているか、あったらその骨子をという御質問でございますが昭和四十九年十月十トン炉増設に際しまして、昭和五十年年度以降五カ年の間に新しい施設を建設して移転するという覚書が正木地区連合会長との間に交わされております。

臭気、紛じん、大気汚染の実態はどうか、バンク寸前かどうかという御質問でございますが、臭気、紛じん、脱臭、紛じんのための装置がきわめて簡単なものしか組み込まれていないこと、そしてその形成が最近の機械炉と違うために、収集したごみを野積みすることが多いこと等から、季節または天候の状況によっては臭気及び煙害のあることは認めざるを得ないところでございます。

す。また、バンク寸前にあるかどうかということでございますが、収集量が年々増加し、多いときには八十トンを超える日もございまして、四十トン処理能力では時間延長と埋め立て処理を余儀なくされている現況でございます。

質問の大きな第七点は、救急医療業務に対する補助金の問題でございますが、まず第一点の安房郡市広域市町村圏事務組合と医師会との間の合意文書の概要でございますが、圏域内の救急業務の円滑な運営を図ることを最重点といたしまして、輪番方式等により医師を確保すること。医師は患者の受け入れ、搬送先医療機関の選定、あっせん及び救急隊の要請によって指示、助言等を行うこと。さらに委託料の金額等を定めております。

第二点の補助目的でございますが、救急隊員が要請等によりまして救急出動いたしましたも、一番の悩みは医療機関の受け入れ体制でございます。そこで、一定の行政区域内におきまして基幹病院等の開設されていない地域に対して、救急医療需要の増大に対処し、円滑な救急業務の推進を図るため、地域医師会の協力を得ることを目的として創設されたものでございます。

第三点と、第四点でございますが、御質問の補助金は支出先が同一の医師会ではございますが、本市が単独で補助したものと、広域市町村圏が昭和五十年年度から創設された業務協力推進費補助により支出したものと二種類に区別されるわけでございます。本市から単独で補助を行ったのは昭和四十九年度でございますが、補助金の支出を受けた医師会におきまして、救急担当病院にこれを配分するとともに、救急業務中重要な分野を占める看護技術要員を確保するため、医師会立である高等看護学院に対し支出する

という措置がとられております。これらにつきましては、医師会において救急医療業務の体制づくりという本市の補助目的に従い配分されたものでございます。

昭和四十九年度における救急搬送件数は八百六十一件、加えて救急車の搬送によらない相当数の事故者及び急病患者等が医師会の会員医師によりまして医療の供給を受けているわけでございます。他の地域でよく問題となる医師不在等によるトラブルは、医師会の非常な協力によりまして、本市では幸いに聞かれておりませんので、補助の目的が達せられたものと理解をいたしております。

広域市町村圏から昭和五十年年度において医師会に支出された公金につきましては、市町村が支出総額の三分の二を一定割合によりそれぞれ分担するものでございます。したがって、本市といたしましても、当然深い関心を持ち対処いたしておりますが、支出を受けた医師会におきまして、救急医療業務の円滑な運営を図る基本的な趣旨に沿い、有効、適切な使用をされることは、広域市町村圏と合意に達し、当該業務執行の委託を受けた医師会の決定する事項であらうと考えます。

第五でございますが、市議会文教民生委員の方々と医師会の会議につきましては、昭和四十九年五月二十一日地域医療並びに救急医療対策をテーマに協議されたことがございますけれども、当時の記録、なお関係者に聞いた範囲内では、補助金の配分方法について具体的に論議された形跡はないと考えられます。

高等看護学院において昭和五十年度及び昭和五十一年度とも補助金に関する予算計上が医師会において行われている旨を聞いて

おります。

以上、救急医療業務に対する補助金についてお答えをいたしましたけれども、当地区の医師会は、石井議員も高く評価されておりますように、地域と密着し、地域住民の疾病予防、保健指導あるいは対策等積極的な協調体制がとられており、救急医療問題につきましても例外事項ではございません。今後さらによりよい体制の確立を期してまいりたいと考えております。

〇一四番(石井輝久君) 再質問いたします。最初から腹を追って御質問申し上げます。

時間がありませんから、最初の財源の捕捉、赤字の点は、御答弁了承いたします。

財源の捕捉の点で再質問をいたしますけれども、固定資産税の減免これは三月議会でもやりましたけれども、この際は前向きに検討すると言っておられたんですが、そこで具体的に学校教育施設と称する船形からずっと海岸線にある遊休の施設に対する固定資産税、これを前向きに検討された結果、どうなったか。伺いたいのであります。

それから、固定資産税の脱漏、前にも固定資産税は精いっぱい取っているという御答弁がありましたけれども、もういっぺん本当に精いっぱい取っているのかどうか。

そうしてまた、もう一点具体的にお伺いしましょう。市内藤原九番一小川良作さんら、三千九十坪についての固定資産税はどうなっているか。それから市内湊医療センターの土地、家屋に対する固定資産税はどうなっているか。具体的にお伺いしないと、どうも答弁が返ってこないものですから、具体的にお伺いいたしま

しょう。

それから、法人市民税の引き上げ、いまだし検討するということから、これは検討の成果を期待しつつ質問をこれで終ります。

それから、機構の合理化につきましては、ちょっと質問の趣旨と御答弁食い違っておりすけれども、一応了承いたします。

開発公社の借入金の問題でございますが、これは将来の問題として、改めて別の機会で論議してみたいと思います。

それから、真倉の衛生センターに関する問題でございますが、もし市当局が千五百五十四坪を買収したりとするならば、税金の優遇措置を講じられた譲渡所得三千万については云々という御答弁がありましたけれども、私は一算入れて千五百五十四坪について一算入れた結果の試算額をお示し願いたいという御質問だったわけでございますが、この点、具体的に一算入れた試算額をお示し願いたい。

それから、農地法の問題でございますが、抵触しないということとでございますので、これは一応保留して次に進みます。

不動産業者かどうか、有限会社新釜旅館と吉田新一さんが不動産業者であるかどうかについては、これに対しては確認されていないという御答弁でございますが、私は質問の中にも触れましたが、優秀な、慎重なプロジェクトチームを設置されておられるので、万全な調査を完了しておられるという前提のもとに御質問申し上げたんですが、残念ながら確認されておられない。すでに土地の登記簿謄本とか、土地の所有者として上っている。しかも農地を買い、先ほどの一八番議員の質問でも再三繰り返されたように非常に疑惑を生んでおる。その当事者に対する調査不十分

まことに残念であります。調査を要求いたします。

それから、朝日興業と朝日商事これは判断しかねるという御答弁、これも不満足でございます。早速判断をいただきたいと思えます。これは今議会ですらなくて結構でございますが、至急御判断をしていただきたい。

共同担保の件、これは市長の御答弁了承いたします。

それから、館山高校の問題でございますが、これも一応了承いたしました。

次の再質問に移ります。現在の藤原の処埋場でございますが、それぞれお答えをいただいたんでございますが、非常に不思議に思うのは、千八百七十二坪これが現在の用地面積、そうして買い上げ面積は三千九十坪になる。そうすると、非常な誤差が出てくる。一千百数十坪、正確な計算しておりませんけれども、一千坪余りもどっかにいって居るけれども、この間の事情の御説明をお願いいたします。

それから、買い入れ金額二百三十一万五千九百二十四円、私は金額を示しました。ところが、市から予算として支出されたはずの金額は二百八万、二十三万五千九百二十四円金額の誤差があります。この点につきましての説明を要求します。

それから、現所有者これは旧地主五名、したがって再質問の最初の方に固定資産税の項で触れましたけれども、ここでも再び御答弁いただきたい。その五名の方々の所有者の固定資産税はどうなっているか。お答えいただきます。

それから、市と地元との間に売買契約書のほかに付属書を交わしているという御答弁でございます。付属書の内容をお示しをい

ただきたいのでございます。

あと、ちょっと時間の関係がありますので、ごみ処埋場につきましては、一番最後の将来の建設計画、いつ、どのぐらいの規模で、どんな施設、この答弁が漏れておりましたけれども、これは結構でございます。求めません。

最後の質問でございますが、救急医療に關してでございますがいろいろ市長の答弁がございましたけれども、これは明らかに補助目的に従って使った金ではなく、補助の目的外であり、この点私は、医師会の医療救急業務に対する積極的な御協力を多としながらも、答弁としてははなはだ不満足でございますので、地方自治法第百条の規定に従って特別調査を要求する者でございます。

この点は執行部関係ありませんから、のちにまた別の論議になりますが、一応申し上げておきます。

以上、再質問いたします。

○税務課長（小倉澄男君） 税務課関係の御質問につきまして御答弁申し上げます。

第一点の固定資産税関係につきまして、前向きで調査をという点につきましての臨海学校等というお話がございました。これにつきましては、三月の定例会におきまして御質問がございましたので、その後市といたしまして、それにつきまして十分法的にも検討いたしました。一応現況の過程におきましては、地方税法の三百四十八条の二項の九号によりまして、学校法人とかそういうものが、いわゆる本来の用途のために使う施設であるというような解釈上、非課税の範囲に入るというようなことで課税いたしてない現況なんでございますが、先般の御質問にもありましたので

その後そういうような施設につきまして十分調査をいたしておる次第でございます。大体その寮とか、合宿所とか、宿舍とかそういうものが館山市内に二十数カ所ございます。それにつきまして調査をいたしました。ただいま調査文書を正式に照会を取っております間でございますが、現実にこの夏の結果を調べました結果、やはり学校の体育クラブの一環としての施設利用が認められております。そういうような現況で、現在は非課税であるという断定をくださざるを得ないというところでございます。

それから、固定資産の積極的な調査、脱漏がないかということでございますが、現時点におきましては脱漏はないと考えております。ということ、あくまでも固定資産の家屋、土地につきましては申告の義務がございませんものですから、あくまでも市の自主的な調査活動によるわけでございまして、われわれはどうしても税の公平を期するために毎日調査に出ている状況でございます。それと、いわゆる建築課に出ています建築届とか、登記所けもちろんのことでございます。登記所から登記の変更を、これを資料といたしまして、全市にわたり毎日のように職員が出張いたしましたので、この調査を続けておる状況でございます。

それから、三番目の医療センターでございますが、医療センターは、地方税法の第六条の公益に供するものというような、解釈というよりも行政実例で自治省の総務部長通達が昭和三十一年にございますが、その通達によりまして、こういう医療センターを開放型病院にかかわる固定資産は減免をするんだという通達がございまして、現在減免をいたしておる次第でございます。

それから、藤原の処埋場の敷地と考えると、これは先ほども

固定資産の調査の中にも申し上げましたが、土地等につきましては、いわゆる市は四十三年三月三十一日で買収をしたと思うのですが、買収をいたしました、登記が完了いたしましたので、現在も元の地主の所有権になっておりますが、当時の衛生課等が連絡がございまして、その四十四年の一月一日からいわゆる公共施設に利用されているというようなことで非課税の対象といたしまして、税金の徴収はいたしておりません。

〇衛生課長(石井 謙君) お答えを申し上げます。

第一点の藤原処理場の千八百七十二坪の用地、これが買収において買い上げは一町三畝と、この差が四反余あるわけですが、ここにお示ししております処理場の概要書には千八百七十二坪でございしますが、その差が谷藤原の上の台地に約四十アールの池があるわけですが、それを買収いたしましたわけでございます。

次に、付属書の内容でございしますが、土地売買契約の付属書につきまして朗読いたします。

一つは、し尿処理場敷地及び放流水処理のための貯水池の敷地には全面的に市に売り渡す。ただし、将来不要となり処分する場合に旧地主に優先的に売り渡し、その価額は買い上げ時の価額とする。

二、土地代金は昭和三十六年当時より地価の高騰があるが、当時の価額すなわち反当二十万円で妥結する。

三、四十一年度以降の土地賃借料(三等標準米価八俵相当額反当)は市に寄付する。ただし、議会に報告するものとする。

四、貯水池の現況により井戸水使用不能のため飲料水は従来よ

り供給してきたが、今後も供給するものとする。

五、従来どおり脱汚泥は優先的に使用させる。

六、メタンガス使用は余剰の限度において使用できるが、事故等その他一切の責任は使用者が負うものとする。操作上の不当または機械等の故障による被害が発生した場合は、すみやかに適切な処置を講ずるものとする。責任者は十分留意して公害のないよう努力すること。以上であります。

〇一四番(石井輝久君) 財政問題からもういっぺん伺いますが、夏季寮に開しまして地方税法を引用して、三百四十八条御説明を承りましたが、これは三月議会でもそうでございました。しかしこれは遊休の施設ではなくて、地方税法三百四十八条で示しておりますのは「直接保育又は教育の用に供する固定資産」つまり「その設置する学校において直接保育又は教育の用に供する固定資産」こうなっております。ただ施設を設けてあれば、それが直接教育の用に供している固定資産である。こういう判断はできないんです。ですから、前向きに検討をお願いしてあったわけがあります。なお御検討をいただきたいと思っております。

それから、医療センターの土地と家屋につきましての御説明でございしますが、これは法律でいう非課税対象には私はならないと思う。ちょっとどっかに御説明には無理があるように考えられます。仮りに、これを課税したとするならば、土地、建物どの程度の固定資産税になるか。お示しをいただきたいと思っております。

それから、真倉の土地千五百五十四坪、仮りに市が買ったら税金面で一般買い上げ、売買とどのぐらいの違いがあるかという試算額の提示がございません。お調べ願いたい。御答弁をたまわり

たいと存じます。

それから、藤原の土地でございますが、買入れは二百三十一万五千九百二十四円これだけ支払っている。しかしながら市の方では予算議決は二百八万円、この誤差一体どうなったか、いまだに御説明がありません。指摘しておきます。

それから、土地の誤差、台地の池だといいますが、池も地目でございますから面積がございます。池の面積は何坪か、お答えをいただきます。

それから、ただいま読み上げられました売買契約の付属書、これは私が聞いた範囲では売買契約書の付属書は、これは違つてゐるかもしれませんが、なかったように思います。売買契約書に添付されてあつた付属書でございますか。伺います。

それから、現所有者は明らかに小川良作さんから五名でございます。これは法的に五名でございます。買ったときから代金を支払い、税金は取つてない。そうして課税もしてない。登記をしてない。土地の移動というのは登記をもつて優先とするというのが登記法の原則でございます。公共の用に供するからといって、民間所有のいまだに土地でございます。登記なせしなかつたかということの説明は省略いたしておきましょう。しかしながら、買つてから今日まで未登記のまま、そうしてこの財政難の折から、所有は明らかに法的に民間の所有でございます。課税をしてない。そこらに何か非常に大きな矛盾を感じるわけでございます。

それで、池の面積、それから買入れ価額と市から支出した金額の誤差の御説明、それから売買契約書、物として御提示をいただきたい。売買契約書に添付してある、口答の御説明でなく、物

として御提示をいただきたい。

また、最初に返りますが、藤原九番一小川良作さんから三千九十坪に対して固定資産税取つてない。理由が御説明としてありましてけれども、これはいづれにしても何か不自然に感ずるわけでございます。したがつて、明解な御説明をいただきたい。

医療センター土地、家屋それぞれの面積、それからもし仮りに固定資産税取つたら幾らになるか等につきまして御説明をたまわりたいと存じます。

それから、質問があつちこちいって大変恐縮でございますが、真倉の土地の、市長さん御説明で誠意をもつて再三再四今後も地の合意を得べく折衝を重ねる。必ず誠意は、真心は、至誠天に通ずるのだらうというお答えでございます。そうなることを期待いたしますが、非常に難行するでありましょうけれども、あと関連して隣の一五番議員も衛生センターの通告質問を通告しておりますので、あまり話が広がると御迷惑ですので、(笑声)この程度にとどめますが、以上、申し上げた点、再質問いたします。再答弁願います。

○税務課長(小倉澄男君) 医療センターの件に関しましては一応非課税でございませんで、あくまでも課税をしてございます。課税はしてございますが、医療センターの方からこれこれといううような開放型病院であるので、減免の措置をお願いしたい。こういううような申請に基づきまして、これを調査いたしました結果、開放型病院に適合するというようなことにおきまして、地方税法の六条の規定を適用いたしまして、これを減免いたしたという次第でございます。なお、税額でございますが、ここに昭和五十一年

年度ございませんが……………。

○衛生課長（石井 謀君）　まず池の面積でございますが、四反十八歩でございます。

それから、買収価額と予算の価額の差でございますが、現在調査中でございますので、いましばらく。

次に、土地売買契約の付属書でございますが、土地売買契約書以外に、そこに添付しているものが先ほど申し上げたものでございます。

（「物で見せてくれというんです。議長に許可を得て」の声あり）

○議長（吉田勇治郎君）　内容のわかるように答弁しなさい。

○衛生課長（石井 謀君）　石井議員に見せます。

（衛生課長、一四番議員席に届ける）

○一四番（石井輝久君）　御提示いただきました。確かにけさんであります。契印がございませんね。これは、けさんでありますから、物としてはあるということですから、これは契約書の体をなしております。契印おわかりですか、ですから、これは偽造ができる。契約文書としては不備でございます。以上、御指摘しておきます。

議長、続けます。付属文書でございますが、私も聞いておりますところによりますと、藤原のあの処埋場は一定年月がきたら返さなければいけないというように御説明を承っておりますように記憶しております。しかし、この文書でいきますと、返さなければいけないという項目はなさそうに思いますけれども、その点いかがなものでしか。

それから、金額の違いは調査中といいますか、それでよろしい。それから、池の面積四十アール、つまり池を買ったわけでございますか、これは水を使う目的かどうかでございますでしょうか。池の所有者は一体だれだったか。お聞かせを願いたいと思います。

それから、登記をしていなかったという事情がございましょうけれども、ひとつ今後は買ったらすぐ登記をするように心がけてもらわなければいけない。登記がしてないから税金もおかしくなる。当然課税すべきでございます。

○議長（吉田勇治郎君）　一四番議員さんに申し上げます。約束の時間でございますので。

○一四番（石井輝久君）　議長からの制止もございましたので、以上をもって私の再質問を終わります。

○議長（吉田勇治郎君）　一四番議員君の質問を終わります。暫時休憩いたします。

午後二時四十九分　休　憩
午後三時　六分　再　開

○議長（吉田勇治郎君）　休憩前に引き続き会議を開きます。

一五番議員辻田 実君。

（一五番議員辻田 実君登壇）（拍手）

○一五番（辻田 実君）　質問者の最後になりましたが、前任者が多く質問してきましてので重複は避けたいと思います。ひとつよろしく願います。

これまでの質問の中で、国道一二七号線バイパス建設と衛生センター建設についてはある程度理解することができました。

そこで、私はまず第一に国道一二七号線バイパスにおいて質問します。一二七号線は夏季等の交通渋滞と観光、産業開発の面からぜひとも必要であるという考え方の人たちと、同時に館山市の立地条件、環境から見ても、市民に公害、土地買収等の犠牲を付けられてまでも建設の必要はないのではないかという考え方の人たちがおります。具体的には陳情、署名活動等で相矛盾した市民運動が同時に展開されておりますことを見ても明らかでございます。先ほど来の質疑を聞いていまして、市長はバイパスを推進したい信念を持ち、その立場から反対者を説得していくようにされております。

しかし、民主政治の基本は相互理解の上に立ち、相手の意見をよく聞くことであります。反対意見を理解し、その長所を生かし、取り入れることが政治における真理の追求となり、政策の創造に発展するものだと思われるのでございます。

現在の市長は、市長の信念、考え方こうしたものを理解させようということに努力され、ややもすると、この考え方が一方交通の形をとり、市民に受け取られているようにございます。

バイパスの必要性と、その実現を急ぐのであるならば、反対者の意見をよく聞くために努力されることが賢明であり、そのためにはガラス張りの公聴会を開き、市民の合意を完全に得られるようになされることが最も賢策であろうと思われるのでございます。この点について、いかがお考えになっておるのか。御質問を申し上げる次第でございます。

次に、衛生センター建設については、今日の実態と現実においてはどうしても二、三年来に建設が必要とされているわけではござ

います。だからといって、土地買収等が安易にできるからといって場所をきめることは早計であると思わざるを得ません。まず、清掃審議会の先般の答申を尊重し、付記された条件を徹底的に追求されなければならないと思うのでございます。

先般、広島県の処置場を視察して、公害問題については技術的に克服できるように見受けられましたが、これをして絶対に大丈夫であるとは思われません。すなわち機械の新しいうちは自動車でもそうですが、排気ガスはなかなか出ません。四、五年過ぎますと問題が起きてくるからでございます。

したがって、ここでは市民の合意を第一に考えることが大切だと思うのでございます。そこで先般、清掃審議会から答申のあった候補地を主議題として、市内全域から賛成者と反対者の希望をとり、十分討論をしていただいたらいと思っております。その討論の中で市民の認識の高揚を図り、特定候補地にこだわらず積極的に公聴会の内容を発展させていくことが望ましいと思うのでございます。こうした公聴会をいま開催することは非常に時期を得ておると思われまするけれども、いかがなものでしょうか。市長にその所信を伺いたいところでございます。

次に、中央公民館の建設についてお伺いいたします。市内十分館のうち、北条分館を抜かして他の九つの分館はほぼ分館として建設され、全国的にもその施設は非常にすぐれたものがございます。しかし、分館ができただけでは機能を十分果せません。幾つかの改善と充実をしなければなりません。その一つに中央公民館もでございます。公民館の性質上、公民館の果す指導的役割は非常に大きなものがあります。現在の中央公民館は場所的にも、

施設のにも十分とは言えません。市の総合計画の中でも中央公民館の建設が特に計画されていますが、この建設計画について現況と見通しについてどのように考えておられるのか。御質問申し上げます。

さらに、現在館山市において使用されておりますマイクロバスについてお伺いをいたします。決算書等で見ると三台ございますが、その車の購入年月日と使用距離はどのぐらいに達しておりますのか、まずお伺いしたいと思います。また、聞くところによると、マイクロバスの老朽化により市民の利用が低下しているようでございますが、この状況について御説明をいただきたいのでございます。

今日、マイクロバス、大型バスの購入により、行政の能率と効果を上げている市町村が多くなってきております。館山市の地理的条件からもマイクロバス並びに大型バスの購入計画を立て、行政のスピード化と行動範囲の拡大をする必要があると思われるが、この点についていかに考えておられるのか。御質問いたす次第でございます。

最後に、五十二年度予算編成期に入ろうとしておりますが、この点についてお伺いをいたします。

本年度予算では人間尊重と市民生活優先を根本理念として一般会計で四十五億余を編成しております。そして、広報によると、前年に引き続き民生費の大幅な伸びで教育費を抜いてトップに立ちましたと書かれております。この点は表現といたしましては、りっぱなものでございます。しかし、内容は学校校舎の建設等々を見ると、安房郡市内でも最も遅れていますし、全県にも大

きく遅れていることは明らかでございます。したがって、教育施設を放棄した数字的なものが現存していることを認識していただきたいと思っております。

私は、市財政が苦しいことは理解していますが、市政としては学校建築は非常に大きなものでございます。五十二年度予算ではこうした点をどのように考えようとされているのか。その所信をお伺いしたいのでございます。

と同時に、市長は常々政治は選択であると言っておられますが、財政事情は五十二年度も引き続いて苦しいことが予想されます。こうした中で、重点事業に何を選択されようとしているのか。この点を明らかにさしていただきたいと思っております。

さらに、下水、排水については修理、改善しなければならぬ場所が幾つか見受けられます。この状況をどの程度把握されているのでしょうか。台風シーズンを迎え、被害でも出たら大変なことになると思います。それでは遅いのであって、教育環境の整備計画と合わせ下水、排水事業に五十二年度予算方針はいかなる考えをもって当たられようとしておられるのか。この点について明確にさしていただきたいことを御質問申し上げる次第でございます。

以上。

(市長半沢良一君登壇)

○市長(半沢良一君) お答えをいたします。

質問の第一点、国道一二七号線バイパスの建設と衛生センター建設について、市民の合意を得るために公聴会を開く必要はないかという御質問でございますが、国道一二七号線バイパスは国が計画を立てまして、一般国道の改築として事業を実施するもので

でございますが、建設省ではすでに昨年より住民の理解と協力を得るため、地元各関連地域において計画説明会を開催いたしております。建設省では今後も計画の進展に伴い、さらに地元住民並びに関係者にその都度説明をし、話し合いの上、住民の納得と協力を得て事業を進めてまいりたいと申しているわけでございます。市といたしましても、今後も説明会等に加わり国とのパイプ役を努めてまいりたいと考えているわけでございます。

衛生センターにつきましては、し尿、ごみ両施設とも都市にとって絶対不可欠の施設であることは、全市民の方々も十分御理解されているわけでございますので、あとはそのイメージからくる好ましくない施設ということに対する周辺住民の方々の意向をいかにして解決していくかにかかってくるわけでございます。

そして、し尿、ごみ両施設とも、その建設用地については都市計画法により都市計画上の位置決定という手続が必要になるわけでございまして、国の都市計画審議会にかける際に周辺住民の同意が必要となつてまいります。したがって、周辺住民の方々の同意をいただくためには説明会あるいは話し合いという場を何回となく持つことになるわけでございます。

また、関係住民以外の方々につきましても、位置決定の手続の中で計画の縦覧期間が定められ、異議あれば申し立てることができることになっておりますので、パイプスも含めまして公聴会という形式にとられる必要はないものと考えております。

中央公民館の建設の問題でございますが、中央公民館の建設につきましても、市の長期計画に五十二年度設計委託、五十三年度に着工する計画になっておりますが、この建設につきましても御

指摘を受けるまでもなく、十分その必要性を認識しておる次第でございますが、諸般の事情特に財政事情から検討を余儀なくされている次第でございます。経済事情の好転を待ちまして建設する方向で検討いたしたいと考えております。

第三点の大型バス、マイクロバスの問題でございますが、現在市が保有しておりますマイクロバスは二台でございます。その二台とも購入年月日からしますと、一台は十年、一台は六年近くを経過しております。その稼動状況からいたしまして、まだ廃車させるほど老朽化してはいないというふうに考えております。

しかしながら、いずれこれらの車両の更新の際には設備、乗車定員とも現有車両よりすぐれた車両を購入する方法で検討いたしたいと考えております。

質問の第四点、五十二年度予算編成に関する御質問でございますが、まだ予算編成を始めたわけではございませんが、来年度事業といたしましては、生活環境整備に重点を置きまして、本年に引き続き衛生センターの建設を初め上水道では作名ダム関係の配水管敷設等を実施してまいりたいと考えております。

市民生活に密着いたしました下水路、排水路等整備事業につきましても、年次計画に基づきまして、財政の許す範囲内で順次整備を図つてまいりたいと考えております。

また、教育環境整備につきましては、数年前より校舎の改築、校庭の整備を中心に計画的に実施してきておるわけでございますが、五十二年度は館山小学校講堂の防音改築、那古小学校校舎の防音改築、第二中学校校庭整備、北条小学校教室照明施設の完備

等を当面の課題として検討しているわけでございます。

〇一五番（辻田 実君） 再質問をいたしたいと思います。要点を簡潔に第一点から時間の範囲内で質問を続けたいと思います。

まず第一の問題でございますけれども、市長はただいまの答弁の中におきまして、説明会等を鋭意努力して行っていくので、私が指摘しておりますような公聴会の必要はないということを答弁されておりましてたわけでございますので、その点にしましてまずお伺いをいたしたいと思います。

まず第一に、処理場の建設についてお伺いいたしたいと思います。すけれども、ただいま御答弁がございましたように、まず第一点は、館山市にとって二、三年の間に処理場はどうしてもなくてはならない施設であるという立場からこれを推進しなければならぬ。この点については同様でございます。

しかしながら、次の点について私は大きく意見を異にするのでその点についてお伺いしたい。処理場というものは、いま行き詰まっているのは好ましくない施設というイメージがあるからだというところで答弁されました。市長はそういう観点でこれを進めておると思います。では、なぜ真倉につくらなければならないという根拠があるのか、それを明らかにしてもらいたい。第一点において必要であり、そして好ましくない施設というイメージが実際にないということだったら、ほかのどこでもいいじゃございませんか。その点について、どうしてもしなければならぬという根拠をまず明らかにしていただきたいと思ひます。

〇衛生課長（石井 謙君） 真倉につくらなければならないという根拠でございますが、市内数カ所を検討いたしまして、し尿処理

の場合においては水の関係が一番重要になってくるわけでございます。そういうようなものを重点に土地の物色に入つたわけでございします。たまたま汐入川の関係であそこの地域が非常に豊房地区の広い流域を持つ川でございますので、そういうような関係でまず真倉の土地ということで物色したわけでございます。

〇一五番（辻田 実君） ただいま、水の面でもって選定したというところですけれども、館山市水の便のいいところももっとたくさんございます。なぜそこにしないんですか。汐入川の水は確かに水量がでございます。しかしながら、課長さんご存じのように汐入川の水を使つておるところの多くの農民、農業用水、その他の利用が最も多い水域であるということについてはご存じのはずである。そのことは私はきめ手にならぬ。

そういうことを、もう少しどうしても必要な施設なんだから、どこかにつくるうじやないか。もっと市民にガラス張りでもって話しかけたらどうなんですか。真倉の人たちも、私自身もそうです。どうしてもここにつくらなければいけないという根拠は水だけでは考え出されません。

市長の答弁じゃございせんけれども、この施設は汚いというイメージということじゃないんだ。そういうイメージがあるから困るんだ。きれいだったらほかにつくつたらいいでしょう。この点については全く答弁の体をなしていないわけでございますけれども、この点について、さらに水だけのものなのか、そのものだと私は真倉に建設することについてのこれまでの反対運動、そうして真倉の人たちが、周辺の人たちが一生懸命心配しているものに対しての答えが出てこないじゃありませんか。

ですから、先ほど来のいろんな灰色の要素があるんじゃないかというような疑念まで出てくるような質問がなされて、非常に議会としても不名誉なことじゃないですか。もっとこころへんについてあそこにもめる理由がひとつ、いま答弁した以外にあるのかなのか。その点についてお伺いしたいと思います。

○衛生課長（石井 謀君） お答え申し上げます。

ただいま申し上げました点につきましては、し尿処理場をつくる場合には水の関係が一番ポイントでございます。市内数カ所を検討いたしました。土地関係については確かにございます。ございしますが、水と予定面積を買収し得るだけの土地というのがほかには非常にこの地域から比較すると、水の手当てが一番できなかったという点、そういうことでございます。

それから、加えて申し上げるならば、この地域につきましては尿、ごみにつきましては、市内の大体七〇％から八〇％の市街地から一番近かったということでございます。そういうことで、運転に要する経費の問題も若干考えておるわけでございます。

○一五番（辻田 実君） 先ほど来、多くの議員が質問されていまして、この面については時間の無駄でございますから、この点についてはやめますけれども、市長についてもう一点お伺いしたいと思います。

市長は、先ほど来の答弁でもって合意が得られるならば、得られるようにしたい。合意をもって建設したいということでございしますけれども、処理場が市民の合意が得られるならば、真倉以外の土地に建設する意思があるのかなのか。いままでの答弁ですと、どうしても真倉につくらなければいけないという既定方針

の中で、ほかのことを考えてないというふうな形で何かそこにくくりしないものがあるわけでございますが、この点について市民の合意が得られるならば、いまのところ以外につくる意思があるのかなのか。その点についてお伺いしたいと思います。

○市長（半沢良一君） ただいまの段階では、先ほど衛生課長から説明申し上げましたように、このし尿処理場の建設には膨大な水がいりますので、現在の時点以外には適地が考えられませんのどこを選んでいるわけでございます。

○一五番（辻田 実君） もう少し市長さん初め関係者の方は水事情について調査されたいと思います。水がそれだけの問題でしたら、もっとほかにあるはずでございます。それだけの大変な問題でございます。もう一度館山市内を散策していただきたい。この点でもって、これはやめます。

次に、パイパスの件についてお伺いをしたいと思います。パイパスの件について、先ほど来、市長は建設省は現在のパイパスの変更の必要がないということでございますので、建設省と住民とのパイプ役を果して推進したいという答弁を再三繰り返しておられます。

この点について、上げ足をとるようなことになってしまつて申しわけございませんけれども、立ち入って質問したいわけでございます。確かに建設省の計画として一二七号線を建設するについては、建設省が事業主体としての果す役割はあるかと思ひます。しかしながら、その建設省が行おうとしておるところの一二七号線パイパスは館山市の住民の住宅や、また農地や、学校の隣接地を多く通っていくということでございます。館山市は重要な

関係があるんです。建設省がやるからこれに協力したいという行政的な立場の考えは理解いたします。しかしながら、市長は市民に選ばれた市長でございます。市民がここにバイパスをつくることとが果していいのか、悪いのか。その合意を全市民的な立場から全都市計画的な立場から合意を求めていくと、このことをまず行い、むしろ市長は、建設省の意向とかそういうものの以前に、市民はどこにどういう道路をいま希望しておるのか、そうしてここにバイパスができた場合には建設省については市民としてはどのような考えを持っているのか。このことを建設省とかけ合うのが市長の重要な役割ではないかと思うわけです。

そうした面については、いままでも建設省が何回かの説明会、実施するための説明会はいたしてまいりましたけれども、市民のための立場に立ったところの意見を聞く公聴会、賛成、反対の人たちと本当に腹を割って市長が市民から聞いたという形跡は見られないけれども、このことは、地方自治体の自治権の確立であり、市民から選ばれた市長として果さなければならぬ義務じゃないかと思うわけでございます。

こうしたことが理解できれば、先ほどのように、いま公聴会の必要はないということ、私はあり得ないと。市民との対話こそ今日の地方自治体におきますところの民主政治の基本理念だと言われております。私はこれなくして市民の合意が得られるわけはないと思うんです。

現に、反対の署名が九千を突破してある。そうして賛成の署名が一万を越すという勢いをもって行われてある。まさに館山市を二分するような市民運動が展開されようとするときに、私は市長

は本当に裸になって公聴会を連続して開いて、お互いに賛成者、反対者の納得のいく姿勢というものがここに出てこないで、だれのための市長だかと私は言いたくなる。そうした面について、市長は姿勢は市民の上に立つ気があるか、ないのか。いままでの答弁の中ではバイパス役に終始しておりますけれども、バイパス役であってはならないんです。この点については市長はどうなのか。明解な御答弁をいただきたいわけでございます。

○市長（半沢良一君） いままでも、あらゆる機会に申し上げてきましたとおり、この一二七号線バイパスは館山市の都市計画道路にのつたものでございます。そういう意味で、ここに建設するところが一番妥当だというふうに私は考えております。しかし、あくまでも工事主体が建設省でございますので、住民との間に立って建設省に対する窓口として、あらゆる点で住民の不便を来さないように住民の利益になるように努力をいたしたいと考えておるわけでございます。

辻田議員の御質問の中にございました公聴会というものでございますが、これについて、その性格について辻田議員は誤解をなさっているんじゃないかと考えます。公聴会というものは、公の機関がその権限に属する一定の事項を決定する場合に、広く利害関係者、学識経験者等の意見を聞いて参考にするための機関でございます。合意を得るための機関ではございません。

この問題についての賛成意見、反対意見はそれぞれ陳情という形で私どもに至っております。その反対の理由、賛成の理由等十分私は承知をいたしているわけでございます。あえてこの際、公聴会を開いてこの問題について参考意見を聞く必要はないという

ふりに考えております。

〇 一五番（辻田 実君） 私は、そういった言葉上の理屈じゃなくて、現実問題として国会におきますところの一つの法案をめぐっても賛成の立場、反対の立場からそれぞれ専門家、それぞれの利益を代表する立場からの公聴会は現に開かれておるじゃございませんか。

と同時に、多くの市町村においては、都市計画法十六条に基づくところの都市計画を実施するに当たり、必要がある場合は公聴会を開催してこれに供すると、こういうことが都市計画法にあるわけでございます。この都市計画法に定められておるところの公聴会ということについては一定の基準はございません。いま、市長さんが言われたように、そういったあくまでも専門的な意見を聞き参考にするためにという言葉上の問題もあるけれども、現実的にはその賛否またはそうしたところの二つの両極端に分れた場合に、お互いに合意に持っていくという姿勢、これを実現することにおいて公聴会を開くことが都市計画法十六条に基づいて行われても決して違反ではございません。現に国会を初め多くの市町村においてこういうことがなされておるわけでございますから、この姿勢がないかということでございます。

私は、若干苦しいかも知れない。しかしながら、賛成と反対の人たちに本当に裸になって市と三者でもって話し合ったらいいんじゃないですか。けんけんがくぐくやってもいいじゃないですか。けんかをする事によってお互いに仲よくなる。けんかをしないような兄弟ではだめだという日本のことわざにもございます。けんかをしろとは申しませんけれども、お互いに本当に話

し合って、率先して市長がそれに出ていいじゃないですか。都市計画法十六条に基づくところの公聴会に違反しないと思うんです。違反することだったら、公聴会ということじゃなくても、意見を聞く市民との対話集会ということで開催されても結構だと思うので、それこそいま、館山市を二つに割って大きく市民がゆれ動いている中において、このし尿の問題、一二七号線の問題についてやはり対処していくことが賢明の策だ。こういうことがないから、どうか市長はおかしいじゃないか、どうか何かあるんじゃないかというような質問が先ほど来出ているわけでございます。こういうような論議の中ではこの問題の解決は私はないというふうに思うわけでございまして、この点についてどうなのか。

さらに私はもう一点、いま国道一二七号線バイパスに対しまして、先ほど来の質問に出ておりましたように、町内会が署名運動等この運動に関係していることを伺っておりますし、そうしたことの点が指摘されております。

そこでもって、私は簡潔に伺いたいと思いますけれども、次の五点について私は市の行政指導を十分しなければならぬというふうに思うわけでございますけれども、その点についてどのように考えるか。お伺いしたいと思います。

まず第一に、回覧板の公共性でございます。現実的には予防注射を初め市の伝達事項を回覧板で行っておるという市の広報的な要素を持った実績があるということ。

二番目には、行政費の委託費が若干であろうが町内会単位を通じて、町内会とは申しませんが、町内会の機構を通じて行

われてあるということ。

三番目には、ごみ、し尿処理等について町内会に委託してこの料金の徴収をしてある。これは衛生公社等の公社であるとはいえず、やはり市の行政に準ずるこうしたところの事務が行われておるということ。

さらに四番目に、町内会の全部とは申しませんが、町内会の多くの中において納税組合を町内会を中心にして結成され、あるところによっては町内会長が納税組合長になり、あるところによっては町内会長以外から任意的に納税組合をつくっているところもございますけれども、しかし、町内会と納税組合は現実的には幾つかの町内会において重複しておるといふこの公共性。

五番目には、道路の建設、修理等については地元負担金ということが町内会を通じてこれが徴収されているということ。消防についても同様。

こうしたところの行政事務、行政処理に準ずることがある程度委託的に行政委託費の中において示されるように委託されておる。こういう機関の上にこの一二七号線をつくるということ。これが一つは反対勢力がある。これに對抗して行われるということ。これはもはやその段階でもって大きな政治課題になつてゐるわけでございますから、政治課題の一方の方法を、私はこの行政の上ののせるということについては非常に疑義が出てくるという点について、今後町内会等を通じてこのような政治的なし尿処理場の建設賛成の署名とか、さらには一二七号線の政治課題になつてゐる特定の方たちの行動を支持するような政治行動が町内会で行われた場合には、その町内会に対してはただいま申し上げたような行政

事務については根本的に考えていかなければ、私は大きな行政の中立と公平というものについて問題が出てくるかと思つてございすけれども、この点についてはどのようにお考えになるのか、御答弁をいただきたいと思ひます。

○市長（半沢良一君） 町内会はその地区の方々のつくり上げております自主的な団体でございますので、それがどういふ活動をするかということとは、それはそれぞれその町内会の方々の合意によつてきまる問題でございます。現実にそうした町内会というものが、あるいは区というものが現実的な活動をいたしている。ある意味で人格なき法人でございますので、それに対して市がいろいろなことをお願いすることもしかるべきだと考えております。

その活動をそれぞれ市が制約を、自主的な団体でございますから制約をするということとはできないと思ひます。

○一五番（辻田実君） そういう考え方じゃなくて、現実的に私はいま市長が答弁されたようなことについては、私はかねがね正しい持論だというふうに考えております。そういう自主的な団体を育成する意味から行政事務委託並びに寄付行為の依頼、こういうことについては厳に慎むべき問題じゃないか。相矛盾する問題じゃないか。こちらへの問題について、今後十分整理されて当たつていただきたいというふうに思ひます。

この問題については、先ほど来の討論がございすので、私は市長が公聴会の問題について平行線をたどつておりますけれども、今後これらの実施に当たつて、私はもっと市民との完全なる合意を得られる手段を選び出していただいて、いま館山市を右か左か、賛成か反対かというようなことでもつて市を二つに分ける

ような、よその町村のことを言いたくはございませんけれども、学校の統合だとか、町村の合併をめぐって市が真二つになって、親子、兄弟等が全く血を血で洗うような事態もあるわけでございます。こうした事態に発展しないように適切な行政指導を要望いたします。この面については打ち切りしたいと思います。

二番目に、公民館の問題について二、三お伺いしたいと思います。公民館について財政事情から必要性はあるけれども、建設の方向で考えてある。ということとでございますけれども、本市においては公民館活動による社会教育を初め青少年の健全育成のための各種団体、PTA、婦人、青年、老人団体の活動を推進しているわけでございまして、職員の配置、予算の処置がこうした面について少ないように見受けられます。

そこで、次の点について再質問したいわけでございます。館山市の公民館条例第五条には職員を置くことになっております。この配置状況をお伺いしたいと思います。

二番目に、分館の職員は、五条の三項で当分の間は非常勤とすることができるとなっていますが、書記のほとんどが学校の教頭先生に兼務をお願いしてある実情になっておりますが、今日、本間市政が最も力を入れて公民館の改築を行って、学校の間借りをしている公民館というのは現在一つもなくなりました。こうした中において、このように学校の教頭先生をそのまま書記に依頼しておることについては無理があるんじゃないか。このことは、公民館活動について慣例的に流れて積極的な取り組みが見受けられないというふうに判断せざるを得ないわけでございますけれども、この点についてはどのように考えておるのか。お伺いを

したいわけでございます。

〇 社会教育課長（川名 備君） お答えします。

公民館の職員の配置状況でございますが、いろいろ法規に定められておるようなとおりには現在の段階では至っておりません。非常勤あるいは兼務職員が多いわけでございます。特に分館関係でございます。公民館関係といましては、一応主事として二名、なお派遣者教師あるいは社会教育指導員という制度を二名本市では受けておりますので、そういった方が兼務でいろいろな事業に参加、指導、助言等に当たつてゐるような状況でございます。

なお、あと分館関係でございますが、小学校の教頭先生にいろいろ事務的な内容のことはお願いしてあるわけでございますが、これもおいおい専任の公民館主事を置くことによってなるべく望ましいあり方に近い将来改めていくべきであるというふうに考えております。また、そういった時点で十分検討してまいりたいと思いますので、よろしくまた御指導いただきたいと思います。

〇 一五番（辻田 実君） 公民館というのは新しく設置されているんですよ。いまの答弁もありましたように、市の条例には配置するということになってるわけですよ。おいおいとか、財政事情が好転したらやっていきますと、条例どおりにはなっておりませんけれどもということの行政では私は頼りないと思います。

こうした点については、ひとつせっかくの公民館ができたわけでございます。これはやはり行政的に主事ないしその館の役員が有機的に活動しなければ宝の持ちぐされになってしまうわけでございます。何のためにあれだけの予算を投入して公民館を建てた

のか。中央公民館と連携をとりながら効率的な公民館活動、そうして公民館の設置条例の目的の中に書いてあるような、先ほど私が読み上げたような各種団体の育成に積極的に取り組むこと。その本当に市民の納めた税金、そうして予算化された予算の適切な支出になり、市民の資質の向上に、また教育の向上になるわけでございますから、その点については時期がきたからとか、財政事情が好転したらという問題じゃなくて、すみやかにこうしたやりかたを仕事これは一つ一つ完成させていく。予算を中途半端に使ってそれを見放してしまえばこれはむだになります。予算がないからこそ少しでも投機した予算はそれを完全なものにしていく。一つ一つ積み上げていくことが今日では一番大切だと思ふわけでございまして、そうした点についてひとつ善処していただきたい。その他、バスの問題、来年度予算等の編成についてはこれからまだ時期もございします。予算編成の中でもいろいろな論議したいと思ひますので、時間もまいりましたようでございますので、これをもって私の質問を打ち切らせていただきます。

○議長（吉田勇治郎君） 以上で、通告による一般質問を終ります。

休 会

○議長（吉田勇治郎君） お諮りいたします。

議案調査のため、明九月十八日から九月十九日までの二日間休会いたしたいと思ひます。これに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって、九月十八日から九月十九日までの二日間休会することに決しました。

散

会 午後三時五十五分散会

○議長（吉田勇治郎君） 本日の会議はこれにて散会いたします。次会は九月二十日午前十時開会といたします。その議事は各議案の内容審議といたします。

○本日の会議に付した事件

- 一、行政一般通告質問
- 一、休会

